

和仏法律学校講義録

若槻, 禮次郎 / 掛下, 重次郎 / 遠藤, 忠次

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

1

(号 / Number)

号外の4

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

53

(発行年 / Year)

1900-04-29



和佛講義
佛學綱要

第一卷

每月一回
目次

號外之四

相續法 (自二九頁至三〇頁) 法學士若槻禮次郎

強制執行 (自一六頁至一八〇頁) 法學士遠藤忠次

親族法 (自四〇頁至四七頁) 法學士掛下重次郎



090
1899
1-2-4

相續人カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ相續ノ承認又ハ拋棄ヲ爲シタルトキ
ハ債權者ハ之カ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルヤ家督相續ノ承認又ハ拋
棄ハ之ヲ財產權ヲ目的トスル法律行爲ト謂フコト能ハサルヲ以テ家督相續ノ
場合ナルトキハ初ヨリ第四百二十四條ニ該當セス遺產相續ハ財產ノ承認ヲ目
的トスルモノナルカ故ニ遺產相續ノ承認又ハ拋棄ハ之ヲ財產權ヲ目的トスル
法律行爲ト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ第一千二百二條第一項ハ承認及ヒ拋棄ハ
取消スコトヲ得サルコトヲ斷言シ唯其第二項ニ於テ民法第一編及ヒ第四編ノ
規定ニ依リテ取消ヲ爲スコトヲ妨クサルコトノミヲ明言スルカ故ニ詐害行爲
ノ取消ニ關スル第四百二十四條ハ此場合ニ適用ナキモノナリト謂ハサルヘカ
ラス故ニ遺產相續ノ承認又ハ拋棄ト雖モ第四百二十四條ニ依ラハ之ヲ取消ス
コト能ハサルモノトス立法論トシテハ予ハ之ニ賛成スル能ハサルモノナリト
雖モ明文ノ定ムル所ハ之ヲ如何トモスルコト能ハサルナリ
相續ノ承認又ハ拋棄ヲ取消シタルトキハ取消ニ關シ法律ノ規定スル所ニ依リ
初ヨリ承認又ハ拋棄ハ無効ナリシモノト看做サル、モノトス隨テ取消セラレタ

相續法

ル拋棄ニ因リ既ニ他ニ相續ノ承認ヲ爲シタル者アルトキハ其承認モ亦無効ト爲ルヘシ故ニ相續人ハ更ニ其見ル所ニ依リ承認又ハ拋棄ヲ爲スコト其自由ナリトス而シテ此場合ニ於テハ第十七條ノ期間ニ制限セラル、コトナカルヘキカ故ニ相續人ハ相當ノ期間ニ於テ承認又ハ拋棄ヲ爲セハ可ナリ

相續ノ承認又ハ拋棄ヲ取消ストキハ債權者受遺者相續ニ付キ次ノ順位ニ在ル者等ノ地位ニ甚シキ影響ヲ與フルモノナルカ故ニ此ノ如キ未確定ナル狀態ハ成ルヘク速ニ終了セシムルヲ以テ公益上必要ナル事ト爲ス故ニ法律ハ取消權ノ時効ハ之ヲ短期間ニ止メ取消ノ權利ヲ有スル者カ追認ヲ爲スコトヲ得ル時ヨリ六ヶ月間又ハ承認又ハ拋棄又ハ拋棄ヲ爲シタル時ヨリ十年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅スルモノト爲シタリ

第二節 承認

第一款 單純承認

一 單純承認ノ效力

相續ノ單純承認トハ相續ニ付キ法律ノ定メタル效力ヲ全然承認シテ之ニ從フ

ヘキノ意思ヲ現ハスヲ云フ蓋シ相續開始スルトキハ被相續人ノ權利義務カ其相續人ニ移轉スルコトハ法律ノ既ニ明言スル所ニシテ敢テ相續人ノ意思ヲ埃ヲ始メテ然ルモノニアラスト雖モ法律ハ一方ニ於テ相續人ヲ保護スルカ爲メニ之ヲシテ限定承認ヲ爲シ又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得セシメタルヲ以テ一ノ相續開始スルトキハ其相續人ハ之ニ對シテ全然法律ノ定メタル效力ニ服スルノ意ナルヤ若クハ其效力ヲ限定シテ承認セント欲スルモノナルヤ將タ又全ク之ヲ拋棄スルニ意アルモノナルヤハ之ヲ見サルヘカラス故ニ全然法律ノ定ムル所ニ從フノ意アル場合ニ於テモ法律ハ尙ホ其決意ヲ表現セシムルコト、爲シタルナリ而シテ民法ノ定ムル所ニ依レハ相續ハ被相續人ノ一切ノ權利義務ヲ相續人ニ移轉スルノ效力ヲ生スルヲ以テ原則ト爲スカ故ニ相續人カ單純承認ヲ爲マテ全然法律ノ定ムル所ニ從フノ意ヲ現ハシタルトキハ被相續人ノ權利義務ハ無限ニ之ヲ承繼スルコト勿論ナリ隨テ若シ其義務ノ額ニシテ權利ノ額ニ超過スルトキハ相續人ハ自己ノ財產ヲ以テモ之ヲ辨濟セサルヘカラスルモノトス但第千二十三條ハ廣ク無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルコトヲ

規定ニ如何ナル場合ニ於テモ單純承認ハ此ノ如キ效力ヲ生スルモノト爲スカ如シト雖モ國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ハ自ラ其例外ヲ爲スヘキコト多言ヲ要セス何トナレハ家督相續ノ場合ニ於テハ法律カ既ニ債務ノ辨濟ハ財産ノ限度ニ於テスヘキコトヲ定ムルカ故ニ單純承認ハ則チ此ノ如キ效力ヲ認ムルニ過キサルヲ以テナリ

二 單純承認ノ手續

單純承認ハ相續人ノ明示ノ意思又ハ法律ノ規定ニ因テ生スルモノナリ

甲 相續人ノ明示意思

意思ノ表示ハ表意者カ明カニ之ヲ示シタルトキヨリ確實ナルハナキカ故ニ相續人カ明カニ單純承認ヲ爲スヘキコトヲ示シタルトキハ其決意ハ最も明瞭ナリ而シテ法律ハ別ニ意思表示ノ方法ヲ定メサルカ故ニ如何ナル方法ヲ以テスルモ其效力ヲ生スル點ニ於テハ異ナル所ナシ故ニ公正證書又ハ私署證書ノ如キヲ以テ單純承認ヲ爲スヘキコトヲ明カニシタル場合ハ勿論書簡又ハ口頭ヲ以テ其意ヲ示スモ亦其效ヲ生スヘシ唯口頭ヲ以テ單純承認ヲ爲スヘキコトヲ斷言

シタル場合ノ如キハ他日其有無ニ付キ爭アリタル場合ニ於テ之ヲ證明スルコトハ容易ナラサルヘシト雖モ此ノ如キハ立證ノ難易如何ト謂フノミ效力有無ノ問題ニハアラサルナリ

乙 法律ノ規定

第一千二十四條ハ相續人カ單純承認ヲ爲シタルモノト看做スヘキ場合ヲ定メテ三箇ノ場合ト爲シタリ然レトモ規定ノ精神ニ依テ之ヲ類別スルトキハ二箇ノ場合ト爲スコトヲ得ヘシ即チ一ハ法律カ相續人ノ默示ノ意思ヲ推定スルモノニシテ他ノ一ハ法律カ不正行爲ノ制裁トシテ單純承認者ト爲スモノ是ナリ

(イ) 默示ノ意思ニ因ル單純承認 默示ノ意思ニ因ル單純承認トハ相續人ハ明カニ單純承認ヲ爲スヘキコトヲ表示セサルモ其行爲又ハ不行爲ハ自ラ單純承認ヲ爲シタルコトヲ想像セシムルモノヲ云フ

相續人ノ行爲ニ因テ其單純承認ヲ爲シタルモノト推定スヘキ場合トハ相續人カ相續スルニアラサレハ爲スコト能ハサル行爲ヲ爲シタルトキナリ第一千二十

四條第二號ニ依レハ相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ處分シタルトキハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サル、モノトス故ニ相續人カ其相續分ヲ他人ニ讓渡シタル場合又ハ相續財産ニ屬スル或物ヲ賣却シ贈與シ消費シ若クハ之ニ甚シキ變更ヲ加ヘタル場合若クハ相續財産ノ上ニ物權ヲ設定シタル場合等ニ於テハ相續人ハ敢テ單純承認ヲ爲シタルコトヲ明言セスト雖モ法律ハ之ヲ以テ單純承認ヲ爲シタルモノト爲スナリ蓋シ財産ノ處分ハ其權利者ニアラサレハ之ヲ爲スコト能ハス相續開始シタルトキハ相續人ハ法律ノ力ニ依リ相續財産ニ對シテ一應ノ權利者ト爲ルト雖モ此權利ハ相續人カ拋棄ヲ爲サルコトヲ條件トスル權利ナリ故ニ相續人カ其決意ヲ定ムルマテハ相續人ハ相續財産ヲ絶體ニ處分スルコト能ハサルモノトス然ルニ若シ相續人カ相續財産ヲ處分シタルトセハ相續人ハ相續ヲ承認シテ相續財産ノ權利者ト爲リタルカ故ニ此ノ如キ行爲ヲ爲スコトヲ得タルモノト謂ハサルヘカラス即チ此場合ニ於テハ相續人ハ文書又ハ口頭ヲ以テ單純承認ヲ爲シタルコトヲ明言セスト雖モ事實ヲ以テ法律ノ定ムル效力ヲ認ムルコトヲ示シタルモノト謂フヘシ然レト

モ相續人カ保存行爲又ハ第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル貸貸ヲ爲シタルノミナルトキハ之ヲ以テ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サス蓋シ保存行爲ハ管理ノ責任アル者ノ當然爲スヘキ義務ニシテ若シ之ヲ怠レハ賠償ノ責ヲ免レサルモノナリ第六百二條ハ處分ノ能力又ハ權限ヲ有セサル者ノ爲シ得ヘキ貸貸ヲ定メタル規定ニシテ同條ノ定メタル期間ヲ超エサル貸貸ハ是レ亦一ノ保存行爲ナリト謂ハサルヘカラス相續人ノ如キ管理ノ責任アル者カ保存行爲ヲ爲スハ其權利ナリト謂ハシヨリハ寧ロ其義務ナリト謂フコトヲ得ヘシ果シテ然ラハ當然ノ務ヲ盡スモノヲ以テ他意アルモノト推定スヘカラスハ勿論ナリ第千二十四條第一號但書カ保存行爲ヲ除外シタルハ正ニ當リ得タルモノト謂ハサルヘカラス唯予ハ該但書ノ規定カ頗ル當リ得タルモノナルコトヲ信スルト同時ニ此ノ如キ明文ヲ掲クルノ必要アリタルヤ否ヤニ付テハ疑ナキ能ハサルモノナリ何トナレハ保存行爲ハ處分行爲ニアラサルカ故ニ處分行爲ニ關スル規定ニ付テハ保存行爲ヲ除外スルノ要ヲ見ザルヲ以テナリ

相續財産中ニ損敗シ易ク又ハ保存スルニ著シキ費用ヲ要スル物品アルトキハ

舊民法ニ依レハ相續人ハ區裁判所ノ認可ヲ得テ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得タリ新民法ハ此規定ヲ削除セリ然レトモ此ノ如キ物品ハ之ヲ賣却シ金錢ニ換エテ保管ヲ爲ストキハ却テ所有者ニ利益ナルモノナルヲ以テ善良ナル管理者ハ必ス此ノ如キ處置ニ出ツルナルヘシ故ニ新民法ニ於テモ相續人カ相續ニ對スル決意ヲ定メサル間ニ於テ此ノ如キ物品ニ付キ賣却シテ代金ヲ保管スルノ方法ヲ取ルモ之ヲ以テ相續ノ單純承認ヲ爲シタルモノト看做スヘカラサルハ論ヲ缺タス

第一千二十四條第一號ハ單ニ相續人ハ相續財産ノ處分ヲ爲シタルトキニ付テノミ規定スト雖モ予ハ此規定ハ少シク狭キニ失スト爲ス者ナリ相續人カ承認又ハ拋棄ヲ爲サスシテ死亡シタル場合ニ於テ其者ノ相續人カ前相續ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ヘキハ前既ニ之ヲ述ヘタリ而シテ前相續ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スニハ後ノ相續ヲ承認シタル者ナラサルヘカラサルカ故ニ後ノ相續ニ付キ何等ノ決意ヲ明示セサル者カ前相續ニ付キ承認又ハ拋棄ヲ爲シタルトキハ唯其一事ニ因テ其者ハ當然後ノ相續ヲ承認シタルモノト謂ハサルヘカラス相續人

カ明カニ限定承認ヲ爲スノ手續ヲ爲サスシテ相續ヲ承認シタルトキハ其承認ハ常ニ單純承認ナルヘキハ論ヲ須タサル所ナルヲ以テ此場合ニ於ケル承認ハ之ヲ以テ單純承認ナリト爲ササルヘカラス然ルニ前相續ノ拋棄ハ廣ク云ヘハ或ハ之ヲ財産ノ處分ト謂フコトノ得ヘキモ其承認ハ如何ニ見ルモ之ヲ財産ノ處分ト謂フコト能ハサルヘシ故ニ第一千二十四條第一號ハ行爲ニ因リ單純承認ヲ推定スヘキ總テノ場合ヲ包含セスト謂ハサルヲ得ス寧ロ改メテ相續人カ相續ヲ承認スルニアラサレハ爲スコト能ハサル行爲ヲ爲シタルトキト爲スノ適當ナルニ若カス

相續人ノ不行爲ニ因テ其單純承認ヲ爲シタルモノト推定スヘキ場合ハ相續人カ其決意ヲ表スヘキ期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ササル場合ナリ法律ハ相續開始シタルトキハ被相續人ノ權利義務ハ相續人ニ移轉スヘキコトヲ定メ相續人ヲシテ一定ノ期間内ニ此效力ヲ全然承認スルカ又ハ限定シテ之ヲ承認スルカ將タ全ク之ヲ承認セサルカノ決意ヲ爲サシムルコトヲ許シタリ若シ相續人ニシテ其期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ササルトキハ全然法律ノ定ムル效

カヲ受ケシムルコト法律カ時日ヲ期シテ決意ヲ爲スコトヲ許シタル精神ニ合致スルモノト謂ハサルヘカラス而シテ此ノ如キハ相續人ノ意思トモ亦一致スルモノト謂フコトヲ得ヘシ何トナレハ期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ササルハ相續人ニ單純承認ヲ爲スノ意アリタルニ因ルモノト謂フコトヲ得ヘキヲ以テナリ故ニ此場合ニ於テモ亦相續人ハ默示ノ承認ヲ爲シタルモノト謂フヲ不可ナキナリ但第千二十四條ハ法律上ノ推定ヲ規定シ別ニ默示ノ承認ナル文字ヲ用ヒサルヲ以テ期間内ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲サザリシハ全ク怠慢ニ出ツルモノニシテ暗黙ニ單純承認ヲ爲スノ意アリタルニアラサルコト明カナル場合ト雖モ單純承認ノ效力ヲ生スルニ於テ何等ノ妨アルモノニアラス

(四) 不正行爲ノ制裁トシテノ單純承認 相續人カ相續財産ノ全部又ハ一部ヲ隱匿シ私カニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財産目録中ニ記載セザリシトキハ法律ハ其不正行爲ノ制裁トシテ限定承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ許サス必ス單純承認ヲ爲サシム而シテ此ノ如キ不正行爲カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル

後ニ行ハレタル場合ニ於テハ限定承認又ハ拋棄ハ無効ト爲リ法律ノ力ニ依リ其相續人ハ當然單純承認ヲ爲シタルモノト爲ルモノナリ蓋シ單純承認ヲ爲シタル相續人ハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承認スヘクシテ相續財産ヲ隱匿シ消費シ又ハ之ヲ財産目録ニ記載セサルコトニ付キ何等ノ利益ヲ有スルモノニアラサルカ故ニ此ノ如キ不正行爲ヲ爲ス者ハ常ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲サントスル者ナリ故ニ法律ハ之ニ對シ其希望スル限定承認又ハ拋棄ヲ爲スノ利益ヲ奪ヒ以テ其制裁ト爲シ自己ノ財産ヲ以テ被相續人ノ義務ヲ辨濟スルノ危險ナキ墙壁内ニ隱レ私カニ其權利ニ付テノミハ之ヲ利セントスル不正者ヲ豫防セシコトヲ謀リタルナリ但拋棄ヲ爲シタル後此ノ如キ不正行爲アリタルコトヲ發見シ又ハ此ノ如キ不正行爲アリタル場合ニ於テ其相續人カ拋棄ヲ爲シタルニ因リテ相續人ト爲リタル者カ單純承認又ハ限定承認ヲ爲シタル後ハ拋棄ハ無効ト爲ルモノニアラス法律カ拋棄ヲ無効トシ其相續人ヲシテ單純承認者タラシムルハ其不正行爲ノ制裁ナリ然ルニ其相續人カ拋棄ヲ爲シタルニ因リテ相續人ト爲リタル者カ既ニ相續ノ承認ヲ爲シタル後ニ於テ尙ホ拋棄ヲ無

效トスルトキハ其結果相續ヲ承認スルヲ利益トシテ之ヲ承認シタル次ノ順位ノ相續人ノ既得權ヲ害スルニ至ルヘシ不正行爲者ヲ責メントシテ却テ不正行爲ナキ者ノ既得權ヲ害スルコトハ法律ノ避ケサルヘカラサル所ナルヲ以テ第一千二十四條第三號ハ此場合ニ於テハ單純承認ヲ爲シタルモノト看做ササルコトヲ定メタリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ相續人ト爲ル者ハ其承認ヲ爲シタル者ニシテ拋棄ヲ爲シタル者ハ其不正行爲ヨリシテ相續人ニ及ホシタル損害ニ付テ之カ賠償ノ責ニ任スヘキモノナリ

第一千二十四條第三號ハ相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ相續財産ノ全部若クハ一部ヲ隱匿シ私ニ之ヲ消費シ又ハ惡意ヲ以テ之ヲ財産目録中ニ記載セサリシトキト云ヘリ文字ノミニ付テ觀ルトキハ同號規定ノ意義ハ稍明瞭ヲ缺クカ如シ然レトモ同號ハ相續人カ既ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ハ如何ナル事情アルモ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サスト雖モ唯爾後同號ニ掲クルカ如キ不正行爲ヲ爲シタル場合ニ限リテノミ單純承認ヲ爲シタルモノト看做スト云フノ意ニアラサルコトハ明カナリ何トナレハ相續ノ拋棄ヲ爲ス

場合ニハ財産目録ノ調製ヲ要セサルヲ以テ財産目録ノ記載カ不正ナル爲メ單純承認者トナルハ常ニ相續ノ限定承認ヲ爲シタル場合ノミナリト謂ハサルヘカラス然ルニ財産目録ナルモノハ限定承認ヲ爲スノ要件トシテ其前ニ調製スヘキモノナルカ故ニ限定承認ヲ爲シタル後惡意ヲ以テ相續財産ヲ財産目録中ニ記載セサルカ如キ場合ノ生スヘキコトハ想像スヘカラサル所ニシテ此ノ如キ見解ヲ取ルトキハ同號規定ノ一部ハ無意義ト爲ルヘキヲ以テナリ又同號ハ相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ス前ニ於テハ常ニ單純承認ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノニシテ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタル後ト雖モ同號ノ掲クルカ如キ不正行爲ヲ爲シ又ハ之ヲ發覺シタルトキハ此場合ニ限リテハ之ヲ單純承認者ト看做スヘキモノナリト爲スニアラサルコトモ亦疑ナシ何トナレハ一定ノ期間内ハ限定承認又ハ拋棄ヲ爲ササルモ之ヲ以テ單純承認者ト視ルヘカラサルハ法律規定ノ嚴然タルモノアルヲ以テナリ故ニ同號ノ規定ハ凡ソ相續人ニシテ相續財産ノ隱匿又ハ私消ヲ爲シ若クハ惡意ヲ以テ相續財産ノ財産目録中ニ記載セサリシ者ハ其行爲ヲ爲シタル時直チニ單純承認者ト看做サルヘキモノ

ナリ而シテ其相續人カ限定承認又ハ拋棄ヲ爲シタルコトハ法律ノ推定カ效力ヲ生スルコトニ對シテ何等ノ妨ヲ爲スモノニアラスト爲スニ在ルモノト謂ハサルヘカラス同號本文ノ意義ニシテ既ニ此ノ如クモ其但書ノ意義モ亦之ヲ解スルコト難カラス即チ相續人カ不正行爲ヲ爲シタルトキハ其行爲カ相續人ノ拋棄ヲ爲ス前ニ在ルト將タ其後ニ在ルトヲ問ハス其拋棄ハ無効ト爲リテ相續人ハ單純承認者ト爲ルヘキモノナリト雖モ相續人カ拋棄ノ手續ヲ爲シタルニ因リ相續ノ次順位者カ相續ノ承認ヲ爲シテ相續人ト爲リタルトキハ不正行爲者ヲ單純承認者ト爲セハ其既得權ヲ害スルニ至ルヘキカ故ニ此場合ニハ不正行爲者ヲ單純承認者ト看做サスト云フニ在ルモノトス人或ハ曰ク相續人カ不正行爲ヲ爲シタル後ニ於テ相續ノ拋棄ヲ爲シタルトセハ其拋棄ハ法律上當然無効ナリ何トナレハ不正行爲ヲ爲シタル相續人ハ第一千二十四條第三號ノ本文ニ依リ直チニ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サルモノナリ而シテ相續ニ對スル決意ハ一ツリテ二アルヘカラスナルモノナレカ故ニ一タヒ單純承認者ト看做サレタル以上ハ更ニ限定承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得サルモノナリ故

ニ不正行爲ヲ爲シタルカ爲メニ法律ノ力ニ依リ當然單純承認者ト爲リタル者カ更ニ相續ノ拋棄ヲ爲スモ其拋棄ノ效力ヲ生スヘキ理由ナキヲ以テナリ相續人ノ拋棄ニシテ果シテ無効ナリトセハ無効ノ拋棄ハ次順位者ヲシテ相續人タラシムルノ效力ヲ生セサルヲ以テ次順位者カ相續ヲ承認スルモ其承認ハ亦無効ナリト謂ハサルヘカラス故ニ第一千二十四條第三號但書ハ一旦有效ナル拋棄ヲ爲シタル者カ爾後不正行爲ヲ爲シタル爲メ單純承認者ト看做サルヘキ場合ニ於テノミ適用スヘキモノニシテ不正行爲ヲ爲シタル後拋棄ヲ爲シタル者カ單純承認者ト看做サルヘキ場合ニ於テハ之ヲ適用スルコト能ハサルナリト然レトモ此ノ如ク解スルトキハ立法者カ第一千二十四條第三號但書ヲ設ケ不正行爲者ヲ責ムルカ爲メ不正行爲ナキ者ヲ害セザラントシタル趣旨ヲ失フモノト謂ハサルヘカラス相續ノ次順位者ハ相續人ニ不正行爲アル如キコトハ固ヨリ之ヲ知ラサルヲ以テ其拋棄ハ有效ナリト信シ相續ノ承認ヲ爲シテ既ニ自ら相續人ト爲リタリトノ確信ヲ有スルモノナルニモ拘ハラズ相續人カ嘗テ隱匿私消ノ如キ容易ニ知レ難キ不正行爲ヲ爲シタルノ故ヲ以テ其確信スル所ノ資格ヲ

失ハシムルカ如キハ不正行為ナキ者ヲ保護スル所以ノ途ニ於テ甚シキ缺點アリト謂フヘシ況ヤ相續人カ隱匿私消ヲ爲シテ拋棄シタルニモ拘ハラヌ尙ホ次順位者カ之ヲ承認シタル如キ場合ハ其相續ハ相續人ニ利益アル場合ナリ假リニ然ラストスルモ少クトモ相續人ニ利益アルノ見込アル場合ナリ然ルニ不正行為ナキ次順位者ノ有スル此利益ヲ奪ヒ之ヲ不正行為ヲ爲シタル相續人ニ與フルカ如キハ何等ノ理由ナキコトナルニ於テヤハ是レ豈ニ該但書ノ意義ナランヤ特ニ第千二十四條第三號ノ本文ニシテ苟モ不正行為アリタルトキハ其行為ハ相續人カ相續ノ拋棄ヲ爲ス前ニ在リタルト其後ニ在リタルトヲ問ハス總テ之ニ適用セラルヘキモノトセル其本文ニ對スル但書ハ當然其全部ニ對スル例外ト爲ルヘキモノナルカ故ニ不正行為ヲ爲シタル後相續人カ相續ヲ拋棄シタル場合ニ於テ次順位者カ既ニ相續ノ承認ヲ爲シタルトキハ第千二十四條ノ推定ハ適用セラレサルモノナリト謂ハサルヘカラス

第千二十四條第三號ニ依リ單純承認ヲ爲シタルモノト看做サルヘキ場合ハ財産ノ隱匿私消又ハ惡意ノ記載脫落ヲ爲シタル場合ニシテ其ニ相續人ノ故意ニ

出タル場合ナリ隨テ相續人ノ過失ニ因テ財産ヲ紛失シ消滅シ又ハ記載ヲ脫落シタルトキハ同號ノ關セサル所ナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ相續人ハ其過失ノ責ヲ負ヒ賠償ヲ爲ササルヘカラスト雖モ之ニ因テ單純承認者ト爲ルカ如ク制裁ヲ受クルモノニアラス

第二款 限定承認

一 限定承認ノ效力

第千二十五條ニ依レル相續人ハ相續財産ノ有ル限リニ於テノミ被相續人ノ債務及ヒ其爲シタル遺贈ノ辨濟ヲ爲スヘキ制限ヲ附シテ承認ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ抑モ承認トハ事實ノ存在ヲ認ムルノ意ナルヲ以テ制限ヲ附シタル承認ナルモノハ用語ニ於テ稍穩カラスト雖モ相續ニ付テハ法律カ特モ法律ノ定メタル效力ニ對シ制限ヲ附シテ之ヲ承認スルコトヲ許シタルヲ以テ限定承認モ亦是レ一ノ承認ナリト謂ハサルヘカラス故ニ限定承認者ト雖モ其承認ニ因テ自ら相續人ト爲リ相續財産ニ付テハ之カ權利者ト爲リ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ニ付テハ之カ義務者ト爲ルモノナリ唯其承認ニ附シタル制限ノ力

ニ因リ義務辨濟ノ點ニ於テ單純承認者ト其結果ヲ同シウセサルアルノミ今左
 ニ其制限ノ效力ヲ列舉シテ之カ略説ヲ試ミントス
 (一) 相續人ハ相續財産ノ現度ニ於テノミ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スル
 コトヲ要ス

法律ハ相續ノ效力ヲ規定シ相續人ハ被相續人ノ一切ノ權利義務ヲ承繼スヘキ
 モノト爲シタルヲ以テ單純承認ノ場合ニ於テハ相續財産ニシテ被相續人ノ債
 務及ヒ遺贈ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ相續人ハ自己ノ財産ヲ以テモ之ヲ辨
 濟セサルヘカラスト雖モ限定承認ノ場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ノ限度ニ
 於テノミ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スレハ可ナリ如何ナル場合ニ於テモ
 自己ノ財産ヲ以テ之ヲ辨濟スルコトヲ要セス即チ限定承認ノ場合ニ於テハ被
 相續人ノ債務及ヒ遺贈ノ辨濟ハ法律ノ規定ニ依リ常ニ相續財産ノ負擔タルヘ
 キモノニシテ相續財産ハ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ノ辨濟完了スルマテハ相續
 人ノ財産中ニ在テ特別ノ財産ヲ形成スルモノナリ
 舊民法ハ限定承認ノ效力ハ相續人ヲシテ相續財産ノ限度ニ於テ債務辨濟ノ責

ニ任セシムルニ在リト爲シタルニ新民法ハ債務ノ外遺贈モ亦相續財産ノ限度
 ニ於テノミ之ヲ辨濟スレハ可ナリト爲シタリ舊民法ト雖モ遺贈辨濟ノ義務ハ
 相續人ヲシテ無限ニ之ヲ負ハシムルノ意ニアラサルヤ明カナリ何トナレハ被
 相續人カ既ニ負擔シタル債務スラ尙ホ相續財産ノ限度ニ於テ之ヲ辨濟スレハ
 可ナリト爲シタルニ被相續人カ死亡ノ際新ニ設ケタル義務ニシテ其辨濟ノ責
 任ハ無限ナリト爲スノ理ナキヲ以テナリ唯茲ニ研究セサルヘカラサルハ之ヲ
 明言セサルコト舊民法ノ如クナルモ遺贈辨濟ノ責任ハ必ス有限ナルモノナル
 ヤ將タ之ヲ明言スルコト新民法ノ如クスルニアラサレハ遺贈ノ辨濟モ亦無限ニ
 其責ヲ負ハシムヘキモノナルヤニ在リ子ノ見ル所ヲ以テモハ法律ニ於テ明言
 スルニアラサル遺贈ニ關シテハ相續人ハ無限ニ其辨濟ノ責ニ任セサルヘカク
 ス何トナレハ法律ハ相續人ヲ以テ遺贈義務者ト爲シタルヲ以テ苟モ相續人ト
 爲リタル以上ハ遺贈ヲ辨濟セサルヘカラス而シテ既ニ辨濟ノ義務アリトセル
 法律ニ於テ其效力ニ制限ヲ附スルニアラサレハ常ニ全額ニ辨濟ヲ爲スヘキコ
 ト當然ナルヲ以テナリ人或ハ曰ク遺贈トハ被相續人カ死後ニ於ケル其財産ノ

處分ヲ爲スモノナリ人ハ自ラ有スル財産ニアラサレハ之ヲ處分スルコト能ハサルモノナルカ故ニ遺贈ナルモノハ其性質ニ於テ初ヨリ相續財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ヲ爲スヘキモノナリ故ニ限定承認ノ效力ヲ定ムルニ於テモ遺贈ニ付テハ特ニ其規定ヲ爲スノ必要ヲ見サルモノナリト然レトモ遺贈トハ法律カ被相續人ヲシテ最後ノ意思ヲ以テ相續人ヲ義務者トシテ第三者ニ利益ヲ與フルコトヲ得セシムル一ノ法律行為ナリ而シテ法律ハ特ニ被相續人ハ其財産ノ限度ニ於テスルニアラサレハ遺贈ヲ爲スコト能ハサルコトヲ規定セサルカ故ニ被相續人ハ生前ニ於テモ財産以上ニ贈與ヲ爲スコトヲ得ルカ如ク死後ニ於テモ亦其財産以外ニ遺贈ヲ爲スコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス果シテ然ラハ遺贈ニ付テモ限定承認ノ效力アルコトヲ明言スルニアラサレハ遺贈辨濟ノ責任ハ法律ノ特別ノ規定ニ依ルモノトシテ無限ト爲ルヘシ故ニ新民法ノ債務ノ外特ニ遺贈ニ關シテモ限定ノ效力アルコトヲ明言シタルハ其當ヲ得タルモノト謂ハサルヘカラス

第一千二十五條ハ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ノ辨濟ニ關シテノミ相續財産ノ限度

ニ止マルヘキコトヲ規定ス故ニ被相續人ノ債務及ヒ遺贈以外ニシテ相續ニ因リ相續人ノ義務ト爲リタルモノハ相續人ハ相續財産以外ニ在テモ其義務ヲ辨濟セサルヘカラス家督相續ノ場合ニ於テ新民法ノ規定ニ依レハ戸主ノ義務モ亦相續ノ效力トシテ被相續人ヨリ相續人ニ移轉スルモノナリ而シテ戸主ノ義務ハ債務ニアラサルカ故ニ限定承認ヲ爲シタル相續人ト雖モ之カ履行ニ關シテハ相續財産ノ限度ニ止マルコト能ハス又被相續人ノ葬式費用ハ予ノ見ル所ヲ以テスレハ被相續人ノ債務ニアラス葬式ヲ爲ス義務アル者即チ相續人アル場合ニ於テハ相續人ノ負擔タルヘキモノニシテ法律カ特ニ相續財産ニ就キ先取特權ヲ以テ之カ辨濟ヲ受クルヲ許シタルノミナルヲ以テ若シ相續財産ニシテ之ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ相續人ハ自ラ其不足額ノ辨濟ヲ爲ササルヘカラサルモノナリ

第一千二十五條ニ相續ニ因リテ得タル財産ノ限定ニ於テノミト云ヘリ遺留分權利者カ贈與ノ滅殺ニ因リテ得タル財産モ亦遺留分權利者タル相續人カ相續ニ因リテ得タル財産ナルコトハ第九百六十七條第二項ヲ其第一項ト比較シテ何

等ノ疑ヲ容レサル所ナリ果シテ然ラハ遺留分権利者カ贈與ノ滅殺ニ因リテ得タル財産モ亦之ヲ被相続人ノ債務及ヒ遺贈ノ辨濟ニ充テサルヘカラサルヤ前ニモ一言シタル如ク法律ノ意ハ決シテ此ノ如クナラサルナリ法律カ贈與ノ滅殺ヲ爲スコトヲ許シタルハ相続人ヲシテ其遺留分ヲ保全セシムルカ爲メナリ若シ贈與ノ滅殺ニ因テ得タル財産ニシテ相続債權者及ヒ受遺者ヲ利スルモノトセハ贈與ノ滅殺ハ多クノ場合ニ於テ遺留分ノ保全ナル目的ヲ達セス況ヤ法律ノ滅殺ヲ許シタルハ贈與ノミニアラス遺贈モ亦之ヲ滅殺スルコトヲ得ヘキモノト爲シタリ然ルニ遺贈ヲ滅殺シテ受遺者ヲ利スト謂フ如キハ法律ノ規定ヲシテ全ク無意義ノモノタラシムルニ於テヲヤ故ニ第一千二十五條ノ所謂相続ニ因リテ得タル財産中ニハ贈與ノ滅殺ニ因リテ得タル財産ノ包含セラレサルコトハ規定ノ性質上自ラ然ラサルヘカラサル所ナリトス

(ロ) 相続人カ被相続人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セサルモノトス
權利カ義務者ニ歸屬シタル場合又ハ義務カ權利者ニ歸屬シタル場合ニ於テハ其履行ハ不能ト爲ルカ故ニ其權利義務ハ自ラ消滅スヘキモノトス然レトモ權

利義務カ混同ニ因テ消滅スルハ其履行カ不能ト爲ルニ基クモノナルカ故ニ其履行ニシテ不能ト爲ラサルトキハ權利義務ハ同一人ニ歸屬スルモ其權利義務ハ依然トシテ消滅セスト爲スコト當然ナリ被相続人カ相続人ニ對シテ權利ヲ有シ又ハ之ニ對シテ義務ヲ負ヒタル場合ニ於テ相続ノ開始ニ因リテ權利義務カ相続人ニ歸屬シ相続人ノ權利義務ト區別ナキニ至レハ同一人ニシテ同時ニ權利者ニシテ且義務者タル能ハサルカ故ニ其權利義務ハ履行カ不能ニ因リ自ラ消滅スヘト雖モ相続人カ限定承認ヲ爲シタルトキハ履行ハ決シテ不能ニアラス被相続人ノ權利義務ハ相続人ニ移轉スト謂フト雖モ其權利義務ハ相続人固有ノ權利義務ト自ラ區別ヲ爲シ特別財團ノ如キ状態ヲ爲スルヲ以テ相続人固有ノ義務ハ此特別財團ニ向テ其辨濟ヲ爲スコトヲ得ヘク又相続人固有ノ權利ハ此特別財團ニ對シテ履行ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ其權利義務ハ之ヲ消滅セシメスシテ可ナリ特ニ此ノ如キ場合ニ於テ其權利義務ヲ消滅セシムルトキハ相続人カ限定承認ヲ爲セタル所以ノ趣旨ニ背馳スルニ至ルヘシ何トナレハ相続人カ限定承認ヲ爲スハ自己ノ財産ヲ以テ

相續上ノ義務ヲ負擔セヌ又相續債權者又ハ受遺者ヲ害シテ自己ノ利益ヲ爲サ
 スト謂フニ在ルモノナルニ權利消滅スルトキハ消滅セタル權利ノ限度ニ於テ
 ハ自己ノ財産ヲ以テ相續上ノ義務ノ辨濟ニ充テタリト謂フコトヲ得ヘク其義
 務消滅シタルトキハ消滅シタル義務ノ程度ニ於テハ相續債權者及ヒ受遺者ヲ
 害シテ自ラ利シタリト謂フコトヲ得ヘキヲ以テナリ故ニ第千二十七條ハ相續
 人カ限定承認ヲ爲セタルトキハ其被相續人ニ對シテ有セシ權利義務ハ消滅セ
 タリシモノト看做シタリ而シテ第千二十七條ハ廣ク權利義務ト爲シタルヲ以
 テ獨リ債權債務ニ止マラス物上ノ權利義務モ亦相續ニ因リテ消滅セサルモノ
 ナリ

被相續人カ相續人ニ對シテ有シタル權利又ハ相續人カ被相續人ニ對シテ有シ
 タル權利ニシテ消滅セストセハ相續人ハ何人ニ對シテ其權利ノ實行ヲ爲シ其
 相續ノ辨濟ヲ求ムヘキヤ民法及ヒ民事訴訟法ハ此點ニ付キ何等ノ規定ヲ爲サ
 ス故ニ相續人ハ自ラ辨濟ヲ爲シ自ラ辨濟ヲ受タルモノナリト謂ハサルヘカラ
 ス而シテ其辨濟ニ付キ利害ノ關係アル者之ヲ不當トスルトキハ相續人ヲ被告

トシテ請求ヲ爲スヘキモノトス
 (二) 相續人ノ債權者ハ相續債權者及ヒ受遺者ヲ辨濟ヲ得タル後ニアラサレハ
 相續財産ニ就キ其權利ヲ行フコト能ハス
 第千二十五條ハ相續人ハ相續財産ノ限度ニ於テ相續債權者及ヒ受遺者ニ辨濟
 スヘキコトヲ定ムト雖モ相續人ノ債權者ハ相續債權者及ヒ受遺者カ辨濟ヲ得
 タル後ニアラサレハ相續財産ニ就キ其權利ヲ行フコト能ハサルコトヲ明言セ
 ス然レトモ此事タル限定承認ヨリ生スル當然ノ結果ニシテ特ニ法律ノ明言ア
 ルヲ埃タサルモノナリ蓋シ限定承認トハ相續人固有ノ財産ヨリ相續財産ヲ
 分離シ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ以テ其上ニ存スル負擔ト爲スモノナルカ
 故ニ其反面ニ於テハ相續人ノ義務ハ其固有財産ノ負擔ト爲シ相續債權者及
 ヒ受遺者カ全部ノ辨濟ヲ受ケタル後ニアラサレハ相續財産ニ及フモノニア
 ラサルコトヲ意味スルモノナリ而シテ是レ甚タ至當ノ事ニ屬ス何トナレハ
 相續人ノ債權者タル者ハ限定承認ニ因リ相續債權者及ヒ受遺者ノ爲メニ害
 セラル、コトナキニ相續債權者及ヒ受遺者カ相續人ノ債權者ノ爲メニ害セ

ラル、コトアル如キハ甚ク不公平ナルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テナリ

二 限定承認ノ手續

第一千二十六條ニ依レハ相續人カ限定承認ヲ爲サンコト欲スルトキハ第十七條第一項ニ定ムル期間内ニ財産目録ヲ調製シテ之ヲ裁判所ニ提出シ限定承認ヲ爲ス旨ヲ申述スルコトヲ要ス即チ相續人ニシテ限定承認ヲ爲サント欲セハ先ツ第一ニ財産目録ヲ調製セテ相續財産ヲ正確ニ記載セサルヘカラス蓋シ限定承認ノ場合ニ於テハ相續人ハ相續財産ノ限度ニ於テ相續債權者及ヒ受遺者ニ辨濟スヘキモノナルヲ以テ相續人ハ財産目録ヲ以テ相續財産ヲ明カニシ以テ其義務ノ範圍ヲ確定シテ之ヲ相續債權者及ヒ受遺者ニ示ササルヘカラス

次ニハ其財産目録ヲ裁判所ニ提出シテ限定承認ヲ爲スヘキ旨ヲ申述スルコトヲ要ス相續人カ限定承認ヲ爲スト否トハ相續債權者及ヒ受遺者ニ取テ最モ大ナル利害ノ關係アルコトナルカ故ニ其決意ノ確定シタルコトハ確實ナル方法ニ因リ之ヲ明カニセサルヘカラス故ニ裁判所ニ申述セシメ公認ヲ得セシムルコトヲ爲シタリ而シテ非訟事件手續法ニ依レハ限定承認ノ申述ヲ受クヘキ裁判所ハ

相續開始地ノ區裁判所ナリトス

相續ニ對スル決意ハ各相續人ハ獨立シテ其意ニ隨ヒ之ヲ定ムルコトヲ得ルモノナリ故ニ相續人ノ多數ナル場合ニ於テ其一人ハ限定ヲ爲サンコトヲ欲シ他ノ相續人ハ單純承認ヲ爲サンコトヲ欲スルカ如キコトアルトキハ各相續人ハ各其見ル所ニ隨ヒ決意ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ伊太利民法ノ如キハ此ノ如キ場合ニ於テハ相續人ハ總テ限定承認ヲ爲スヘキコトヲ定ムト雖モ我民法ハ此ノ如キ規定ヲ爲サス予ハ必要ナキ限リハ法律ハ他人ノ意思ノ爲メニ自己ノ意思ヲ枉クサルヘカラサルカ如キ規定ヲ設ケサルヲ可トスルモノナリ故ニ我民法ニ依レハ相續ハ多數ナル場合ニ於テ其一人ノミ限定承認ヲ爲サンコトヲ欲セハ其相續人ハ他ノ相續人ノ意思如何ニ關セス單獨ニテ限定承認ノ手續ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ而シテ多數相續人中一人ノミ限定承認ヲ爲シ他ノ相續人ハ總テ單純承認ヲ爲シタルトキハ限定承認者ハ其負擔スヘキ義務ニ付キ相續ニ因リテ得タル財産ノ限度ニ於テ其辨濟ヲ爲スヲ要シ單純承認者ハ其負擔スヘキ

義務ニ付キ無限ニ之ヲ辨濟スルコトヲ要スルモノナリ
 三 限定承認者ノ權利義務

限定承認ハ相續財産ヲシテ相續人ノ財産ヨリ分離シタル特別財産タラシメ組
 續上ノ義務ヲ以テ其負擔ト爲スモノナルヲ以テ限定承認アリタル場合ニ於テ
 ハ相續上ノ義務ハ一ニ相續財産ニ就テ其辨濟ヲ得サルヘカラス故ニ限定承認
 ノ場合ニ於テハ何人カ相續財産ヲ管理シ之ヲ以テ相續上ノ義務ヲ辨濟スルコ
 トヲ爲サ、ルヘカラス而シテ法律ハ此任務ヲ擧ゲテ之ヲ限定承認ヲ爲シタル
 相續人ノ責ト爲シタリ蓋シ限定承認ヲ爲シタル相續人ハ其承認ニ制限ヲ付シ
 タリト雖モ荷モ承認ヲ爲シタルモノナルヲ以テ之ニ因テ相續人ト爲リ相續財産
 ノ權利者ト爲ルモノナリ故ニ相續財産ヲ管理シ其上ニ存スル負擔ヲ辨濟スヘ
 キ任務者ヲ求ムルトモハ順序トシテ先ツ第一ニ指テ相續人ニ屬セサルヘカラ
 ス特ニ相續人ヲシテ此任務ニ當ラシムルコトハ此任務ヲ全ウスルニ於テ最モ
 適當ナリト謂ハサルヘカラス何トナレハ相續財産ヲ以テ相續上ノ義務ヲ辨濟
 シテ殘餘アルトキハ其殘餘ハ限定承認ヲ爲シタル相續人ニ歸スヘキモノナル

カ故ニ相續人ハ其財産ヲ善良ニ管理シ且直チニ相續財産ノ負擔タルヘキモノニ
 アラサレハ之ヲ辨濟セサルコトニ付キ最モ大ナル利害關係ヲ有スルモノナル
 ヲ以テナリ故ニ法律ハ相續人ヲシテ此任務ニ當ラシメタルナリ相續人ノ權利
 義務ヲ分テハ大體ニ於テ相續財産ノ管理及ヒ清算ナリト謂フコトヲ得ヘキカ
 故ニ以下此二段ニ分テテ説明セント欲ス

甲 財産ノ管理

管理ノ責アル者カ其管理スル財産ニ對シ爲スヘキ注意ノ程度ニ關シテハ我民
 法ハ場合ニ依リテ二様ノ場合ヲ爲シ或場合ニ於テハ善良ナル管理者ノ注意
 ヲ爲スヘキモノト爲シ又或場合ニ於テハ自己ノ財産ニ加フルト同一ノ注意
 ヲ爲スヘキモノト爲ス相續人カ相續ニ對シテ未タ其決意ヲ定メサル場合ニ於
 テ相續財産ヲ管理スルニハ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲スヘキモノト
 爲シ限定承認ヲ爲シタルトキモ亦然リト爲ス蓋シ限定承認ノ場合ニ於テ相續
 財産ハ相續上ノ義務ノ擔保ヲ爲スモノナリト雖モ元來既ニ相續人ノ權利ニ歸
 シタルモノナルカ故ニ相續人ノ之ヲ視ルコト自己ノ財産ト甚シク異ナル所ナキ

モノナリ自己ノ財産ト同視スルモノヲ自己ノ財産ト同一ノ注意ヲ以テ管理スルハ人情ノ自然ニシテ其間何等ノ咎ムヘキ所ナキヲ以テ法律ハ之ヲ以テ限定承認者カ相續財産管理上ノ注意ノ程度ト爲シタルナリ故ニ限定承認者カ相續財産ノ管理ニ付キ善良ナル管理者ノ敢テ爲テ、ル所ノ過失ヲ犯シタル場合ニ於テモ其過失タル限定承認者カ其固有ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ爲シタルニモ拘ハラヌ生シタルモノナルトキハ限定承認者ハ其過失ノ責ニ任セサルモノナリ

法律カ限定承認者ヲシテ相續財産ノ管理ヲ爲サシムルハ相續財産ハ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ノ擔保ヲ爲スヲ以テナリ即チ限定承認者ハ相續債權者及ヒ受遺者ノ利益ノ爲メニ相續財産ヲ保管スルモノナリ故ニ相續債權者又ハ受遺者ヨリ請求アルトキハ何時ニテモ管理ノ狀況ヲ報告セサルヘカラス且清算終了シタルトキハ遲滞ナク管理ノ顛末ヲ報告スルコトヲ要ス加之限定承認者ハ管理ヲ爲スニ當リテ受取リタル金銭其他ノ物及ヒ相續財産ヨリ生々タル果實ハ之ヲ相續財産ニ加フルコトヲ要シ自己ノ名ヲ以テ取得シタル權利ト雖モ相續財産ノ爲メニ

之ヲ取得シタルモノハ之ヲ相續財産ニ屬スレ權利ト爲ササルヘカラス然レトモ法律ハ限定承認者ヲ以テ相續財産ノ管理ニ最モ適當ナリト爲シ之ニ管理ノ責ヲ負ハシムト雖モ之カ爲メ限定承認者ヲシテ管理以上ニ義務ヲ負ハシムヘキモノニアラサルカ故ニ限定承認者カ管理ノ爲メニ必要ナル費用ヲ出ダシタルトキハ相續債權者及ヒ受遺者ヨリ其費用及ヒ支出ノ日以後ニ於ケル其利息ヲ償還セシムルコトヲ得ヘク若シ管理ノ爲メ必要ナル債務ヲ負擔シタルトキハ之ヲシテ自己ニ代リテ其辨濟ヲ爲サシメ又其債務カ辨濟期ニ在ラサルトキハ相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得ルモノナリ

佛伊等ノ民法ニ於テハ限定承認者ハ相續財産ヲ相續債權者及ヒ受遺者ニ委棄シテ管理ノ責ヲ免ルルコトヲ許ス故ニ佛伊等ノ民法ノ下ニ於テハ限定承認者ハ相續財産ヲ管理シテ其清算ヲ爲スモ殘餘ノ已レニ歸スルモノナキコト明瞭ナルニ至レル相續財産ヲ委棄シテ其管理ノ煩勞ヲ避クルコトヲ得ヘシト雖モ我民法ハ相續財産ノ委棄ナルコトヲ許ササルカ故ニ相續財産ヲ以テ被相續人ノ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スルニ足ラサルコト明カナルニ至ルモ相續人ハ之カ管理

ヲ免ルルコトヲ得ス然ルニ相續財産ヲ管理シテ其清算ヲ爲スモ何等ノ得ル所
 ナキトキハ限定承認者ハ自ら管理及ヒ清算ニ十分ノ注意ヲ爲ササルニ至リ爲
 メニ相續債權者及ヒ受遺者ハ甚シキ損害ヲ受クルニ至ルナキヲ保セス故ニ法
 律ハ第一千二百一十一條第二項ヲ此場合ニ準用シ利害關係人又ハ檢事ノ請求アレハ
 裁判所ハ何時ニテモ相續財産ノ保存ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得ルモノ
 ト爲シ以テ相續債權者及ヒ受遺者ノ利益ヲ保護シタリ而シテ相續財産ノ保存
 ニ必要ナル處分トシテハ裁判所ハ管理人ヲ選任シ之ヲシテ相續財産ヲ管理セ
 シムルコト最モ適當ナルヘシ此場合ニ於テハ第二十七條乃至第二十九條ノ規
 定ヲ準用スヘキモノトス

乙 清算
 限定承認ノ場合ニ於テ相續人ハ相續財産ノ限度ニ於テ相續債權者及ヒ受遺者
 ニ辨濟ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ相續人ハ相續財産ヲ以テ債務及ヒ遺贈ノ辨
 濟ヲ爲スノ手續ヲ盡ササルヘカラス即チ相續財産ノ清算ヲ爲スコトヲ要スル
 モノナリ左ニ序ヲ追フテ清算ノ手續ヲ説明セントス

(イ) 公告及ヒ催告 清算ヲ爲スニハ先ツ以テ相續債權者及ヒ受遺者ヲシテ清
 算ヲ爲スヘキ事情ノ生シタルコトヲ知ラシメ併セテ相續人モ亦債權及ヒ遺贈
 ノ價額及ヒ其權利者ヲ確知セサルヘカラス故ニ法律ハ清算ノ第一着手トシテ
 限定承認者ハ限定承認ヲ爲シタル後五日以内ニ公告ヲ爲シ權利者ヲシテ請求ノ
 申出ヲ爲スコトヲ得セシムヘキコトヲ命シタリ此公告ニハ相續人カ限定承認
 ヲ爲シタルコト相續債權者及ヒ受遺者ハ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲ス
 ヘキコト及ヒ其期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權又ハ遺贈ハ清算ヨリ除
 斥セラルヘキ旨ヲ記載スルコトヲ要ス而シテ相續債權者及ヒ受遺者カ請求ノ申
 出ヲ爲スヘキ期間ヲ定ムルニハ二个月ヲ下ルコトヲ得タルヲ以テ公告ヲ爲シタ
 ル日ヨリ少クモ二个月後ヲ以テ申出ヲ爲スヘキ期限ト爲ササルヘカラス
 相續人ハ右ノ公告ヲ爲スト同時ニ現ニ知レタル相續債權者及ヒ受遺者ニハ各
 別ニ催告ヲ爲スコトヲ要ス而シテ其催告スヘキ事項ハ公告ニ記載スヘキ事項
 ト同一ナルモノトス

相續人ハ公告又ハ催告ヲ爲ササルモ之ニ因テ限定承認ノ利益ヲ失フモノニア

ヲス然レトモ公告及ヒ催告ハ法律カ限定承認者ニ命シタル義務ナルヲ以テ相
 續人ニシテ法律ノ命シタル義務ヲ盡サス爲メニ相續債權者及ヒ受遺者ニ損害
 ヲ與ヘタルトキハ其損害ハ相續人之ヲ賠償セサルヘカラス何トナレハ懈怠ヨ
 リ生シタル責任ハ懈怠者之ヲ負擔スヘキハ當然ナルヲ以テナリ相續人カ公告
 又ハ催告ヲ爲サザリシカ爲メ請求ノ申立ヲ爲サザリシモ債權者又ハ受遺者ア
 リタル場合ニ於テ他ノ債權者又ハ受遺者カ若シ其者カ申立ヲ爲セハ受クルコ
 ト能ハザリシ辨濟ヲ受ケタルトキハ申立ヲ爲サザリシ債權者又ハ受遺者ハ之ニ
 對シテ其金額ノ償還ヲ求ムルコトヲ得ルヤ他ノ債權者又ハ受遺者ハ其權利ナ
 クシテ辨濟ヲ受取リタルニハアラサルカ故ニ其辨濟ヲ受ケタルハ不當ノ利得
 ヲ爲シタルニアラス隨テ原則トシテ求償ノ權利ナキモノトス然レトモ他ノ債
 權者又ハ受遺者ニシテ情ヲ知リナカラ辨濟ヲ受ケタルトキハ其債權者又ハ受遺
 者ハ他人ニ損害ヲ與フルコトヲ知リナカラ敢テ此ノ如キコトヲ爲シタルモノナ
 ルカ故ニ其行爲タル不法ナルモノト謂ハサルヘカラス不法行爲者ニ對シテハ賠
 償ヲ求ムルヲ得ヘキコト當然ナルヲ以テ此場合ニ於テハ申出ヲ爲サザリシ債

權者又ハ受遺者ハ不當ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ニ對シテ求償ヲ爲
 スコトヲ得ルモノナリ第三十六條第二項ハ情ヲ知リテ不當ニ辨濟ヲ受ケタ
 ルト云フカ故ニ情ヲ知ルモ正當ニ辨濟ヲ受ケタルコトアルヘキヲ想像スルカ如
 シ予ハ此ノ如ク解セズ情ヲ知リテ辨濟ヲ受ケタルトキハ其行爲ハ常ニ不當ナル
 モノト見サルヘカラス

第三十六條ニ依リテ爲ス賠償ハ不法行爲ニ基ク損害賠償ノ性質ヲ有スルモ
 ノナルカ故ニ其求償權ノ時効ニ付テハ法律ハ不法行爲ニ基ク損害賠償權ニ付
 キ定メタル所ヲ適用スヘキモノトス

(ロ) 期間滿了前ニ於ケル辨濟ノ拒絕 相續財産ニシテ相續上ノ義務ヲ辨濟ス
 ルニ足ルトキハ相續人ハ無論相續上ノ義務ヲ全部辨濟セサルヘカラスト雖モ若
 シ相續財産ニシテ相續上ノ義務全部ヲ辨濟スルニ足ラザルトキハ相續人ハ相
 續財産ノ限度ニ於テ債權額及ヒ遺贈額ノ割合ニ應ジテ辨濟ヲ爲ササルヘカラ
 ス然ルニ債權及ヒ遺贈ノ請求申出ノ期間滿了前ニ於テハ如何ナル債權者又ハ
 受遺者ノ現出スルヤ測テ難キヲ以テ其間ニ債務又ハ遺贈ノ辨濟ヲ爲スヘキモ

ノトスルトキハ他日豫知セラレザリシ債權者又ハ受遺者ノ現出シタル場合ニ於テハ其者ニ仕拂フヘキ金額ハ既ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ヨリ之ヲ取戻ササルヲ得サル場合ヲ生スルコトアルヘシ此ノ如キハ相續債權者及ヒ受遺者ノ受ケタル辨濟ヲシテ甚タ不確定ノモノタラシメ其利益ヲ害スルコト尠カラサルヲ以テ法律ハ相續人カ第一千二十九條第一項ノ期間満了前ニ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テハ其辨濟ハ取戻スヘカラサルモノト爲シ他ノ債權者又ハ受遺者ニシテ之カ爲メニ辨濟ヲ受ケルコト能ハサルニ至リタルトキハ其損害ハ相續人ニ於テ之ヲ賠償セシメ唯他ノ債權者又ハ受遺者カ其辨濟ハ期間満了前ニ於テ爲サルモノニシテ他ノ債權者又ハ受遺者ハ之カ爲メニ損害ヲ受クヘキコトヲ知リタル場合ニ於テノミ其者ヲシテモ尙ホ賠償ヲ爲サシムルコトト爲シタリ故ニ期間満了前ニ於テ辨濟ヲ爲スコトハ相續人ニ取リテ甚タ危険ナル所爲ト謂ハサルヘカラス是レ第一千三十條カ期間内ニ於テハ限定承認者ニ辨濟拒絶ノ權利アリト爲シ以テ之ヲシテ他日ノ危険ヲ避クルヲ得セシメタル所以ナリ第一千三十條ハ何等ノ區別ヲ爲サスシテ期間満了前ニハ相續債權者及ヒ受遺者

ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得ルコトヲ定メタルカ故ニ限定承認者ハ相續財産カ總債權額及ヒ總遺贈額ヲ辨濟スルニ足ラサル場合ニ於テ此權利ヲ行フコトヲ得ルハ勿論相續財産カ優ニ債務及ヒ遺贈ヲ辨濟スルニ足ルコト明カナル場合ニ於テモ尙ホ此權利ヲ行フコトヲ得ルモノナリ然レトモ第一千三十條ハ限定承認者ニ辨濟拒絶ノ權利アルコトヲ定ムルノミニシテ之ヲ以テ其義務ト爲シタルニアラサルヲ以テ期間内ト雖モ限定承認者ハ辨濟ヲ爲スコトヲ得サルニアラス唯期間内ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ時トシテ相續債權者又ハ受遺者ニ對シテ損害賠償ノ責ヲ負ハサルヘカラサルカ故ニ相續財産カ負債ヲ辨濟シテ優ニ餘アルノ見込確定シタル場合ノ外ハ限定承認者ハ期間満了前ニ於テハ相續債權者又ハ受遺者ノ請求ニ對シテ辨濟ヲ拒絶スルヲ以テ用意周到ナルノ所爲ト謂ハサルヘカラス

凡ソ義務アル者ハ履行ノ請求ヲ受ケタルトキハ之カ辨濟ヲ爲ササルヘカラス
 限定承認者ハ承認ニ制限ヲ附シタリト謂フト雖モ既ニ相續ヲ承認セタル以上ハ被相續人ノ債務及ヒ其遺贈ニ付テハ之カ義務者ト爲リタルモノナリ義務者

カ義務ノ履行ヲ請求セラレ之ニ應スルハ正ニ其責任ヲ盡スモノナリ第千三十條ハ限定承認者ニ許スニ期間満了前ニ於テハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテ辨濟ヲ拒ムコトヲ得ルコトヲ以テシタルノミ之ニ因テ辨濟ヲ拒絕スルノ義務ヲ生シタルニアラス然ルニ第千三十六條ハ限定承認者カ其責任ヲ盡シテ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ其結果他ノ債權者又ハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキハ之ニ因リテ生シタル損害ハ限定承認者即チ能ク責任ヲ盡シタル者ノ負擔タルヘキモノト爲ス予ハ其如何ナル法理ニ基キ此ノ如キ規定ヲ設ケラレタルヲ知ル能ハス辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者モ亦然リ辨濟ヲ受クヘキ權利アルカ故ニ辨濟ヲ請求シ又之ヲ受ケタルナリ偶チ權利ノ履行カ他人ニ損害ヲ與フルコトヲ知ルモ其行爲タル之カ爲メニ少シモ不法ト爲ルヘキ理ナシ然ルニ法律ハ權利ノ實行ヲ爲シタル者ヲシテ損害ノ賠償ヲ爲サシム之ヲシモ不可思議ノ規定ト言ハスンハ何レノ規定カ不可思議ノ規定タルモノアラシキ然レトモ法律ノ規定ハ嚴然侵スヘカラス法律ハ此ノ如キ場合ニ於テ損害賠償ノ責任ヲ負ハシムルナリ而シテ此責任ハ不法行爲ヨリ出テタルモ

ノト同一ノ時効ノ適用ヲ受クルモノトス

(一) 相續財産ノ賣却 限定承認者カ相續財産ノ清算ヲ爲スニ付テハ被相續人ノ有シタル債權ハ其履行ヲ請求シ其債務及ヒ遺贈ハ其辨濟ヲ爲ササルヘカラス然ルニ辨濟ヲ爲スニ當リ債務及ヒ遺贈ニシテ現物ヲ以テ辨濟スルコト能ハサルモノアルトキハ勢ヒ金錢ヲ以テ之ヲ辨濟セサルヲ得ス此ノ如キ場合ニ於ケル相續財産中ノ金錢ニアラサルモノ即チ金錢以外ノ動産不動産及ヒ直チニ履行ヲ請求スル能ハサル權利ノ如キハ賣却シテ之ヲ金錢ニ換ヘサルヘカラス而シテ第千三十四條ニ依レハ限定承認者カ相續財産ノ賣却ヲ爲スニハ必ス競賣ノ方法ニ依ルコトヲ要ス蓋シ競賣ナルモノハ多數ノ見ル所ニ依テ物ノ價額ヲ定ムルモノナルカ故ニ不正ノ行ハルル虞ナク債權者及ヒ受遺者ノ爲メニ最モ安全ナル方法ナルヲ以テナリ

限定承認者ニシテ競賣ノ方法ニ依ラスシテ相續財産ヲ賣却シタルトキハ如何ナル結果ヲ生スルモノナルヤ其賣却カ無効ト爲ラサルハ明カナリ何トナレハ競賣ニ付スヘキコトハ法律カ限定承認者ニ命スル義務ナルモ買主ニ對シテハ何

等ノ關係ナキコトナルヲ以テナリ限定承認者カ之ニ因テ限定ノ利益ヲ失ハサルコトモ亦疑ナシ何トナレハ限定承認者カ限定ノ利益ヲ失フ場合ハ第十二條第三號ニ該當スル場合ニ限ルモノニシテ此場合ハ同號ニ該當セサルヲ以テナリ唯限定承認者ハ法律ノ定メタル義務ヲ盡ササルモノナルカ故ニ若シ之ニ因テ相續債權者又ハ受遺者ニ損害ヲ與ヘタルトキハ之ヲ賠償セザルヘカラス法律ハ此事ヲ明言セスト雖モ法律ノ當然ニシテ敢テ疑ヲ容レサル所ナリ法律ハ相續債權者及ヒ受遺者ノ利益ヲ保護スル爲メ相續財産ノ賣却ハ競賣ノ方法ニ依ルヘキコトヲ定ムルト同時ニ限定承認者ニ認ムルニ裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從ヒ相續財産ノ全部又ハ一部ノ價額ヲ辨濟セテ其競賣ヲ止ムルノ權利アルモノト爲シタリ蓋シ相續財産中ニハ家ノ財實タルカ如キモノアリ相續人ノ情ニ於テ他人ノ手ニ入ルヲ欲セサルモノアリ故ニ相續人ヲシテ其價額ヲ辨濟シテ其物ノ所有權ヲ保持スルコトヲ得セシメタリ而シテ相續人ハ裁判所ノ選任シタル公平ナル鑑定人ノ評價シタル價額ヲ辨濟スヘキモノナルヲ以テ債權者及ヒ受遺者ハ之カ爲メニ其利益ヲ害セラルルノ虞

ハ之ナキモノナリ

相續債權者及ヒ受遺者ハ限定承認ノ場合ニ於テハ相續財産ノ限度ニ於テノミ辨濟ヲ受タルモノナルカ故ニ相續財産競賣及ヒ鑑定ノ當ヲ得ルト否トハ其利害ニ大ナル關係アルモノナリ故ニ法律ハ相續債權者及ヒ受遺者ヲシテ競賣及ヒ鑑定ニ參加シ其當否ヲ監視スルコトヲ得セシメタリ唯參加ハ全ク債權者又ハ受遺者ノ利益ノ爲メニ之ヲ許スモノナルカ故ニ其費用ハ利益ヲ受タル者ニ於テ負擔スルコト當然ナリ故ニ參加ノ費用ハ參加ヲ爲シタル債權者又ハ受遺者ニ於テ之ヲ負擔セザルヘカラス
 債權者又ハ受遺者ヨリ參加ノ請求アリタルニ拘ハラズ其參加ヲ待タズシテ競賣又ハ鑑定ヲ爲シタルトキハ其競賣又ハ鑑定ハ參加ヲ請求シタル者ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ其競賣又ハ鑑定ニ因リ損害ヲ受タルコトヲ證明スルトキハ限定承認者ハ之ヲ賠償スルノ責アルモノトス
 (二) 債務及ヒ遺贈ノ辨濟、相續債權者及ヒ受遺者カ請求申出ヲ爲スヘキ期間満了シタルトキハ限定承認者ハ相續財産ヲ以テ債權者及ヒ受遺者ニ辨濟ヲ爲

スヘキモノトス而シテ債權者ト受遺者トノ間ニ於テハ債權者ハ受遺者ニ先テ
 テ辨濟ヲ受タルコトヲ得ルモノナルカ故ニ限定承認者ハ各債權者ニ辨濟ヲ爲
 シタル後ニアラザレハ受遺者ニ辨濟ヲ爲スコト能ハサルモノトス
 限定承認者ハ獨リ期間内ニ請求ノ申出ヲ爲シタル債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲ス
 ヘキノミナラス申出ヲ爲ササルモ既ニ知レタル債權者ニ對シテモ亦之ヲ爲サ
 サルヘカラス而シテ相續財産ニシテ總債務ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルトキハ無
 論各債權額ノ辨濟ヲ爲スヘシト雖モ若シ相續財産ニシテ總債務ノ辨濟ニ充ツ
 ルニ足ラザルトキハ請求ノ有無ト又其前後トヲ問ハス相續財産ヲ各債權者ノ
 債權額ニ按分シテ其辨濟ヲ爲スヘキモノナリ但優先權ヲ有スル債權者ニ對シ
 テハ優先權ノ目的タル物ノ價額ヲ以テ先ツ其辨濟ニ充テ不足アル場合ニ於テ
 不足額ニ付キ他ノ債權者ト同シク按分ニ加ハラシムヘキモノトス
 債權中期限ヲ有スルモノ又ハ條件附ナルモノ若クハ存續期間ノ不確定ナルモ
 ノアルトキハ辨濟ハ如何ニシテ之ヲ爲スヘキヤ法律ニ何等ノ規定ナキトキハ
 此等ノ債權ノ辨濟ニ充ツヘシ金額ハ之ヲ保存シ置キ辨濟期ニ至リテ之ヲ辨濟ニ

充當セサルヘカラス而シテ若シ其金額不要ニ歸シタルトキハ之ヲ金額ノ辨濟
 ヲ受ケサル他ノ債權者ノ辨濟ニ充ツヘタ若シ不足ヲ告ケタルトキハ既ニ辨濟
 ヲ受タルハ他ノ債權者ヲシテ其一部ヲ返却セシメテ之ヲ補充セサルヘカラス
 此ノ如キハ永ク法律關係ヲシテ不確定ナラシメ相續ノ清算容易ニ結了セサル
 ヘシ特ニ存續期間ノ不確定ナル債權ノ如キニ至リテハ保存シ置クヘキ金額ハ
 殆ト之ヲ定ムル能ハサルヘシ故ニ法律ハ一ノ規定ヲ設ケ期限附ノ債權ニ付テ
 ハ其期限ヲ消滅セシメ直チニ辨濟スヘキモノト爲シ條件附債權又ハ存續期限
 ノ不確定ナル債權ニ付テハ裁判所ノ選任シタル鑑定人ヲシテ評價セシメ其評
 價額ヲ辨濟スヘキモノト爲シタリ此規定ハ相續人及ヒ債權者ノ利益ヲ害セス
 シテ清算ノ完了ヲ速カナラシムルモノナルカ故ニ頗ル當ヲ得タルモノト謂ハ
 サルヘカラス
 限定承認者カ債權者ニ先テ受遺者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ第一千三十一條第一千三十二
 條ニ違反シタル辨濟ヲ爲シタルトキハ法規ニ從ハサル辨濟ナルカ故ニ之ニ因
 テ生シタル損害ハ之ヲ賠償セサルヘカラス情ヲ知リテ辨濟ヲ受ケタル債權者

又ハ受遺者亦同シ而シテ此場合ニ於ケル賠償請求權モ亦不法行為ニ因ル請求權ノ時効ト同一ノ時効ニ因テ消滅スルモノトス

先テ辨濟スルコトヲ得サルコトヲ定ムルノ外殆ト規定スル所ナシ然レトモ予ハ第一千三十一條ハ之ヲ遺贈ノ辨濟ニ準用スルコトヲ得ヘキモノナリト信ス何トナレハ限定承認者カ義務ノ辨濟ヲ爲スニ付テハ債權者ニ對スルト受遺者ニ對スルトニ因リ異ナルヘキ所ナキヲ以テナリ故ニ期間内ニ申出テサル受遺者ト雖モ既ニ知リタル受遺者ニ對シテハ辨濟ヲ爲ササルヘカラス又相續財産ニシテ總テノ遺贈ヲ辨濟スルニ足ラサルトキハ之ヲ遺贈額ニ按分シテ辨濟スヘキモノトス第一千三十二條ニ至リテハ單ニ辨濟ノ方法ヲ定ムルモノニアラスシテ權利其物ニ關スル規定ナルカ故ニ明文以外ニ之ヲ敷衍スルコトヲ得ス故ニ遺贈ニ關シテハ同條ヲ準用スルコト能ハサルモノトス但限定承認者カ特ニ受遺者ト契約シテ第一千三十二條ニ定ムルカ如キ方法ヲ取ルコトヲ得ヘキハ論辯ヲ俟タル所ナリ

(ホ) 期間内ニ申出テサリシ債權者及ヒ受遺者ニシテ限定承認者ニ知レサリシ者ノ權利 期間内ニ申出テサリシ者ト雖モ限定承認者ニ知レタル者ニハ辨濟ヲ爲スヘキカ故ニ此ノ如キ者カ後ニ請求ヲ爲スカ如キコトハナカルヘシト雖モ限定承認者ニ知レサリシ者ハ辨濟ヲ受ケサルヲ以テ限定承認者カ債權者受遺者ニ辨濟ヲ爲シタル後ニ至リ辨濟ヲ請求シタルトキハ其者ハ如何ナル取扱ヲ受ケルモノナルヤ法律ハ此ノ如キ場合ニ於テ種々ナル規定ヲ爲スコトヲ得ヘシ假ニ其二三ヲ舉クレハ第一ノ主義ハ此ノ如キ者ハ全ク請求權ナキモノナリト爲スコトヲ得ヘシ然レトモ債權者又ハ受遺者ナル者ハ既ニ相續人ヨリ辨濟ヲ受クヘキ權利アルモノナリ然ルニ義務者カ公告ヲ以テ定メタル期間内ニ申出テサリシノ故ヲ以テ之ニ對シテマテ全ク其權利ヲ失ハシムルハ少シク理由ニ乏シキカ如シ法律ハ既ニ期間内ニ申出テサルモ限定承認者ニ知レタル者ハ其辨濟ヲ受クヘキコトヲ定ム限定承認者カ知ルト否トノ如キ偶然ノ事實ニ因テ權利ノ消長ヲ爲サシムルカ如キハ決シテ當ヲ得タルモノニアラス故ニ此主義ハ之ヲ是認スルコトヲ得ス第二ノ主義ハ第一ノ主義ノ正反對ニシテ殘餘財産ニシテ其請

求ニ應スルコトヲ得ス之ヲ以テ其辨濟ニ充タシメ若シ不足スルトキハ後ニ出テタル者カ債權者ナル場合ハ全部ノ辨濟ヲ取消シ更ニ辨濟ヲ爲スヘク後ニ出テタル者カ受遺者ナル場合ハ受遺者ニ爲シタル辨濟ノミヲ取消シテ更ニ辨濟ヲ爲スヘキモノト爲スニ在リ然レトモ既ニ一定ノ期間ヲ設ケテ債權又ハ遺贈ヲ申出ラシメ之カ辨濟ヲ爲スヘキコトヲ定メタルニ尙ホ期間後ニ出テタル請求者ノ爲メニ其辨濟ヲ無効トスル如キハ法律カ清算ノ完了ヲ速カナラムルカ爲メニ期間ヲ定メテ催告ヲ爲サシメタル趣旨ヲ失フモノナリ第三ノ主義ハ稍、第二ト似タリ即チ殘餘財産ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得ハ無論之ヲ以テ辨濟ヲ爲サシムヘク若シ不足スルトキハ後ニ出テタル者債權者ナル場合ニ於テノミ受遺者ニ爲シタル辨濟ヲ取消シ先ツ其債權者ニ辨濟シ然ル後更ニ受遺者ニ辨濟ヲ爲スヘキモノト爲スヘシト云フニ在リ此主義ハ債權ハ常ニ遺贈ニ先タタサルヘカラストノ觀念ヨリ來ルモノナルヘシ然レトモ一旦爲シタル辨濟ヲ取消ストキハ受遺者ノ利益ヲ害スルコト甚シカルヘキカ故ニ期間満了後ニ於テ此ノ如キ處置ニ出ツルハ穩當ナラス第四ノ主義ハ後ニ出テタル者ハ唯殘餘財産ニ付

クノミ權利ヲ有スルモノニシテ既ニ爲シタル辨濟ヲ變更スル權利ナシト爲スモノニシテ我民法ノ採ル所ナリ此主義ハ法律カ相續人ヲシテ期間ヲ定メテ催告シ以テ相續財産清算ノ完了ヲ速カニスルヲ得セシメタル趣旨ヲ失ハスシテ而モ尙モ相續財産ノ有スル以上ハ債權者又ハ受遺者ヲシテ其權利ヲ行フヲ得セシムルモノナルヲ以テ最モ穩當ナルモノト謂ハサルヘカラス我民法ニ依レハ此ノ如キ債權者又ハ受遺者ハ殘餘財産ナキトキハ其請求ヲ爲スコト能ハスト雖之レ有ルトキハ其限度ニ於テハ權利ヲ行フコトヲ得ルナリ而シテ第三十七條ニ所謂殘餘財産トハ相續人ノ手ニ現存スル財産ト謂フノ意ニアラスシテ相續財産中債權者及ヒ受遺者ニ辨濟シタル殘額ト謂フノ意ナク故ニ相續人ハ既ニ之ヲ消費シタル場合ト雖モ其額ヲハ辨濟ノ義務アルモノトス又第三十七條ハ詳細ノ規定ヲ爲サスト雖モ此場合ニ於テモ亦第三十一條第三十二條第三十三條ニ依ルヘキハ勿論ナリト信ス

期間内ニ申出テサリシ債權者ニシテ限定承認者ニ知レサリシ者ハ殘餘財産ニ付テノミ權利ヲ行フコトヲ得ト雖モ相續財産ニ付キ特別擔保ヲ有スルトキハ其

擔保物ノ價額ニ付テハ優先ノ權利ヲ有スルカ故ニ其價額ハ之ヲ既ニ辨濟ヲ受ケタル債權者又ハ受遺者ヨリ返濟セシムルコトヲ得ヘシ是レ第千三十條但書ノ規定スル所ニシテ此ノ如キハ特別擔保ノ效力ニシテ殆ト特ニ規定スルノ必要ヲ見サルモノナリ

第三節 拋棄

一 拋棄ノ效力

相續ノ拋棄トハ相續人カ法律ノ定メタル效力ヲ拒否スルノ意思ヲ表示スルヲ云フモノナリ法律ノ定メタル效力ニシテ發生スルコトナクシハ其者ハ相續ニ對シテハ關係ナキ者ト爲ルカ故ニ相續ノ拋棄トハ相續人カ相續人タルコトヲ辭スルモノナリト謂フコトヲ得ヘシ而シテ第千三十九條ニ依レハ拋棄ハ相續開始ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生スルモノナルカ故ニ相續ノ拋棄アリタルトキ拋棄ヲ爲シタル相續人ハ相續開始ノ時ヨリ全ク相續人ニアラザリシトモノト見サルヘカラス其結果トシテ左ノ如キ事實ヲ生スルモノトス

(イ) 拋棄ヲ爲シタル相續人ハ相續財産ヲ取得セス又相續上ノ義務ヲ負擔スル

コトナシ

(ロ) 拋棄者ト被相續人トノ間ニ存シタル權利義務ノ關係ハ消滅スルコトナシ
(ハ) 拋棄者カ被相續人ヨリ受ケタル贈與ノ價額ハ相續分ノ計算ニ加算セラレズ

(ニ) 拋棄者ハ第千九條ニ依リ相續分讓受ノ權利ヲ有セス
(ホ) 拋棄者ノ相續分ハ拋棄者ニシテ相續人タラサレハ其部分ヲ相續スヘカリシ者ニ歸屬ス 故ニ相續人一人ナル場合ニ於テ拋棄ヲ爲ストキハ相續ニ關シ次

ノ順位ニ在ル者相續ヲ爲スヘク相續人多數ナル場合ニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲シタルトキハ他ノ相續人ハ當初ヨリ其者ノ存在セザリシ場合ト同一ノ相續分ヲ得ヘキモノトス第千三十九條第二項カ拋棄者ノ相續分ハ他ノ相續人ノ相續分ニ應シテ之ニ歸屬スト謂フハ則チ是ナリ而シテ相續分ノ歸屬スル以上ハ義務モ亦其割合ニ於テ之ニ歸屬スヘキハ論ヲ俟タズ茲ニ注意セサルヘカザルハ相續ヲ拋棄シタル者ハ之ニ因テ相續人タラサルニ至ルモノナリト雖モ之ヲ以テ相續權ヲ失ヒタルモノト謂フコト能ハサルコト是ナリ相續權ヲ失フトハ相續ニ對スル決意ヲ爲スコト能ハサルヲ云フ相續ノ拋棄ヲ爲スハ相續ニ對

スル決意ヲ爲スナリ拋棄者ハ其相續權ニ因リ相續ヲ拋棄シ之ニ因テ相續人タ
ラサルニ至リタルナリ故ニ之ヲ相續權ヲ失ヒタルモノト謂フコト能ハス隨テ
相續ヲ拋棄シタル者ノ直系卑屬ハ他ニ相續人ナキカ爲メ自ラ其順位ニ於テ相
續人ト爲ルハ格別第九百九十五條ノ規定ニ依リ拋棄者ノ順位ニ於テ遺產ヲ相
續スヘキモノニハアラサルナリ

二 拋棄ノ手續

相續人ノ何人ニ確定スルヤハ相續債權者及ヒ受遺者ノ利害ニ大ナル關係ヲ有
ス且相續人ノ拋棄スルト否トハ共同相續人又ハ次ノ順位ニ在ル者ノ權利ニ影
響スルコト尠カラス故ニ相續ノ拋棄ハ利害關係者ヲシテ其事實ヲ知ラシムル
ニ容易ニシテ而モ確實ニ其證據ヲ存スヘキ方法ニ依リテ之ヲ爲サシメサル
ヘカラス是レ第一千三十八條カ相續ノ拋棄ヲ爲サント欲スル者ハ其旨ヲ裁判
所ニ申述スヘキモノト爲シタル所以ナリ 而シテ非訟事件手續法ニ依レハ其
裁判所ハ相續開始地ノ區裁判所ナルヘキコトヲ定ムルヲ以テ利害關係者ハ相
續開始地ノ區裁判所ニ就テ觀ルトキハ相續人カ拋棄ヲ爲シタルヤ否ヤハ直チ

ニ之ヲ知了スルコトヲ得ヘシ法律ハ拋棄ノ手續トシテハ單ニ裁判所ニ申述ス
ヘキコトヲ定ムルノミナルヲ以テ相續人ハ拋棄ヲ爲ス旨ヲ裁判所ニ申述スレ
ハ拋棄ハ完成スルモノナリ別ニ公告又ハ通知等ヲ爲スラ要セサルモノトス

三 拋棄者ノ義務

拋棄者ハ拋棄ト共ニ相續トハ關係ヲ絶ツモノナルカ故ニ拋棄後ハ相續上ニ於
テ何等ノ義務ヲ負フモノニアラス然レトモ拋棄者ハ拋棄ヲ爲ス當時ニ於テハ
現ニ相續財産ヲ管理スルモノナルカ故ニ其管理ハ拋棄ニ因リテ相續人ト爲リ
タル者カ相續財産ノ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテハ之ヲ繼續スルノ義務アル
モノトス蓋シ義務ナクシテ他人ノ事理ヲ管理スル者スラ本人カ管理ヲ爲スコ
トヲ得ルニ至ルマテハ其管理ヲ繼續スル義務アルモノナルカ故ニ法律ノ命ス
ル所ニ從ヒ管理ヲ開始シタル相續人カ拋棄ヲ爲ス相續人タラサルニ至リタル
トキニ於テ其者ノ拋棄ニ因リ相續人ト爲リタル者カ管理ヲ始ムルコトヲ得ル
マテ之ヲ繼續スヘキハ當然ト謂ハサルヘカラス而シテ此場合ニ於テ拋棄者ニ
管理ノ繼續義務ヲ負ハシメタルハ拋棄ニ因リテ相續人ト爲リタル者ノ利益ヲ

保護スルカ爲メ必要上法律ノ命スル所ナルカ故ニ其注意ノ程度ハ拋棄前ニ於ケル注意ト同一ナラシムルヲ以テ最モ穩當ト爲ス故ニ第一千四十條ハ相續人ハ決意ヲ爲ス前ニ於テ用フヘキ注意ノ程度ト同一ナル程度即チ自己ノ財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ノ管理ヲ爲スヘキコトト爲シタリ

第一千四十條ハ其拋棄ニ因リテ相續人ト爲リタル者カ相續財産ノ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテト云ヘルカ故ニ同條ハ拋棄ニ因リテ新ニ相續人タルヘキ者ノ生シタル場合ニ限リテ適用スヘキモノノ如シ故ニ相續人多數ナルトキニ於テ其一人カ拋棄ヲ爲セタル場合ノ如ク其者ノ相續分カ他ノ相續人ニ歸屬スルノミニシテ新ニ相續人タル者ヲ生セサルトキハ同條ヲ適用スヘキニアラサル如シ

拋棄者カ他ノ相續人ト共同ニ管理ヲ爲シタル場合ノ如キニ於テハ然リト謂ハサルヘカラス然レトモ從來拋棄者ノミニテ相續財産ノ管理ヲ爲セタル場合ニ於テ他ノ共同相續人カ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテハ拋棄者ニ於テ管理ヲ繼續セサルヘカラス何トナレハ管理者カ管理ノ義務終了シタル場合ニ於テ代リテ管理ヲ爲スヘキ者カ管理ヲ始ムルコトヲ得ルマテハ其管理ヲ爲ササルヘカ

シタルヲ以テ異議ノ訴ヲ爲スニ足ル何トナレハ上告審ニ於テハ控訴審カ裁判ノ憑據ト爲シタル事實ヲ標準トシテ法律上ノ爭ヲ決スルニ止マリ新ナル事實ヲ提出スルヲ許サカレハナリ

第二要件 故障ヲ以テ之ヲ主張スルコトヲ得タルコト 執行名義カ闕席判決(例ヘハ假執行ノ宣言アル闕席判決ナルトキハ故障期間ノ經過後ニアラサレハ異議ノ訴ヲ提出スルコトヲ得ス何トナレハ故障期間内ニ於テハ故障ヲ以テ異議ノ原因タル事實ヲ主張スルコトヲ得ルカ故ニ此異議ノ訴ニ依ルノ必要ナク

レハナリ(第五四五條第二項)

執行名義ハ判決以外ニ尙ホ數種アルコトハ諸子ノ已ニ知ル所ナリ即チ第五百五十九條ニ規定スル所ノモノ是ナリ此等ノ執行名義ニ因レル強制執行ニ對シテ請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起スルニハ其異議ノ原因カ何時ニ生シタルコトヲ要スルヤ此問題ハ各執行名義ヲ區別シテ説明セサルヘカラス

(第一) 抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ノ強制執行ニ對シ異議ノ訴ヲ起スニハ其裁判カ口頭辯論ヲ經タルトキハ其口頭辯論ノ終結後ニ異議

ノ原因ヲ生シタルコト又口頭辯論ヲ經サルトキハ其裁判後ニ同原因ヲ生シタルコトヲ要件トス

(第二) 執行命令ニ基ク強制執行ニ對スル異議ハ其執行命令ノ送達後ニ異議ノ原因ノ生シタルコトヲ要件トス(第五六一條第二項)

(第三) 和解ニ基ク強制執行ニ對スル異議ノ訴ヲ提起スルニハ其和解ノ調ヒタル後ニ異議ノ原因ノ生シタルコトヲ要ス

(第四) 公證人ノ作リタル證書ニ因ル此強制執行ニ對シテハ異議ノ原因カ何レノ時ニ生シタルヲ問ハス請求ニ關スル異議ノ訴ヲ起スコトヲ得第五六二條第三項

請求ニ關スル異議ノ原因數個アルトキハ債務者ハ其訴ニ於テ同時ニ之ヲ主張スルコトヲ要ス(第五四四條末項)蓋シ數個ノ異議ノ原因アル場合ニ其各個ニ付キ順次別ニ訴ヲ起スヲ許ストキハ爲メニ訴訟ノ完結ノ遅延ヲ來シ隨テ強制執行ヲ遅延セシムルノ恐アレハナリ然レトモ異議ノ訴ノ提起後ニ於テ新ナル異議ノ原因ヲ生シ又ハ過失ナクテ知リ得サリシ原因アルコトヲ始メテ知リタル

トキハ已ニ提起シタル訴訟ニ於テ之ヲ追加スルコトヲ得サルニアラス但新ナル原因ヲ申立ツルハ訴ノ變更ナルカ故ニ第一審ニ於テハ被告カ權利拘束ノ效果ニ依リ異議ヲ述ヘサルトキニ限り之ヲ申立ツルコトヲ得ルモ第一九五條第二項第三號控訴審ニ於テハ絕對ニ之ヲ許サス(第四一三條)

債務者ハ第五百十八條第二項ニ掲グル強制執行ノ要件即チ反對給付其他ノ條件履行ノ事實證明セラレタリトシ又ハ第五百十九條ニ規定スル當事者ノ承繼カ明白ナリトシ若クハ證明セラレタリトシテ執行文ノ付與アリタル場合ニ於テ右條件履行ノ事實ナキコト又ハ承繼ナキコトヲ主張スルトキハ亦之ヲ理由トシテ請求ニ關スル異議ノ訴ニ準シ強制執行ニ對シテ異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス而シテ此場合ニハ前説明シタル如ク他ノ一面ニ於テ執行文ノ付與ニ對スル異議ヲ申立ツルヲ得ヘキヲ以テ其一ヲ選擇シテ之ヲ申立ツルモ又其二者ヲ併セ行フモ債務者ノ随意タリ(第五四六條)

第二項 管轄裁判所

請求ニ關スル異議カ判決ニ因リテ確定シタル請求ニ關スルトキハ第一審管轄

判所トシテ其判決ヲ爲シタル受訴裁判所ニ之ヲ爲スヘキモノトス此規定ハ畢竟便宜ノモノニシテ異議ノ訴ハ固ヨリ請求ノ訴トハ其原因ヲ異ニスト雖モ其間ニ大ナル事實上ノ關係アルヲ以テ先ツ請求ノ訴ニ付キ其事實ノ關係ヲ調査知悉シタル第一審ノ受訴裁判ニ此異議ノ訴ヲ管轄セシムルハ最も便宜ニシテ訴訟ノ裁決ヲ迅速ナラシムルノ利益アルハ疑ナキ所ナリ第五四五條第一項) 判決以外ノ執行名義ニ付テモ亦請求ニ關スル異議ヲ爲シ得ルコトハ前ニ説明セシ所ナリ而シテ其執行名義中執行命令ニ關スル場合ト公正證書ニ關スル場合トハ法律カ特ニ異議ノ訴ヲ受クヘキ裁判所ヲ指定セリ即チ執行命令ニ付テハ執行命令ヲ發シタル區裁判所之ヲ管轄シ若シ其事物ノ管轄カ區裁判所ニ屬セサルトキハ其他ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄トス(第五六一條第三項) 又公正證書ニ付テハ異議ノ訴ヲ受クヘキ裁判所ハ債務者ノ普通裁判籍ヲ有スル裁判所若シ之ナキトキハ第十七條ニ規定スル其財産又ハ請求ノ目的物ノ所在地ノ裁判所トス第五六二條第四項故ニ此場合モ執行命令ノ場合ト同シク訴訟物ノ價格ニ從ヒテ或ハ區裁判所ノ管轄ニ屬スルコトアリ地方裁判所ノ管轄

ニ屬スルコトアリ

右ノ外各執行名義ニ付テ法律ハ別ニ異議ノ訴ノ管轄裁判所ヲ定メス唯第五百六十條ニ於テ判決ニ因リ確定シタル請求ニ關スル異議ノ規定ヲ準用スルコトヲ命セリ即チ第一審ノ受訴裁判所ニ之ヲ提起スヘキ旨ノ第五百四十五條ノ規定是ナリ

然ルニ和解ハ訴訟提起後ニ爲シタルトキハ第一審ノ受訴裁判所アルヘント雖モ訴訟提起前ニ爲シタル和解即チ第三百八十一條ニ從ヒ區裁判所ニ於テ爲シタル和解ニ付テハ第一審ノ受訴裁判所アルコトナシ故ニ右ノ準用ニ因リ和解ノ成立シタル區裁判所ヲ以テ管轄裁判所トス

抗告ヲ以テノミ不服ヲ申立ツルコトヲ得ル裁判ノ強制執行ニ付キ起スヘキ請求ニ關スル異議ノ訴ハ第一審トシテ其裁判ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナリ

外國裁判所ノ判決若クハ仲裁判斷ハ就レモ執行判決ヲ受クルニアラサレハ強制執行ヲ爲スコト能ハサルカ故ニ此執行名義ニ基ク強制執行ニ付キ請求ニ關

スル異議ノ訴ヲ提起スルトキハ同前規定ノ準用ニ依リ執行判決ヲ爲タル第一審裁判所ヲ以テ管轄裁判所トスルヲ當然ナリトス第五一四條第八〇二條

第三項 異議ノ效果及ヒ提起ノ時期

第五百四十七條第一項ニ依ルトキハ此異議ハ強制執行ヲ停止スル效力ナシ然レトモ如何ナル場合ニ於テモ異議ノ提起アリタルヲ顧ス執行ヲ續行スヘキモノトセハ債務者ニ回復スヘカラサル損害ヲ生スルノ恐アリ是ニ於テ同條第二項ハ右原則ノ例外トシテ或條件ヲ以テ異議ノ訴ニ付テノ判決前ニ假ニ判決ニ至ルマテ強制執行ヲ制限スル權ヲ裁判所又ハ裁判長ニ付與セリ其制限ノ處分ハ左ノ如シ

- (イ) 保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ停止スヘキ命令ヲ發スルコト
 - (ロ) 保證ヲ立テシメスシテ強制執行ヲ停止スヘキ命令ヲ發スルコト
 - (ハ) 保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ續行スヘキ命令ヲ發スルコト
 - (ニ) 保證ヲ立テシメテ執行處分ヲ取消スヘキ命令ヲ發スルコト
- 右命令ハ適宜其一ヲ選擇シテ爲スヘキモノニシテ受訴裁判所ニ於テスルヲ原

則トス而シテ其命令ヲ發スルニハ左ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

(一) 申立アルコト 此申立ハ異議ノ訴ノ提起後又ハ訴ト同時ニ爲スコトヲ得

(二) 異議ノ原因トシテ主張シタル事情カ法律上ノ理由アリト見ユルコト

(三) 事實上ノ疏明アルコト

右條件中其一ヲ缺タトキ例ヘハ異議ノ爲メ主張シタル事實ニ付キ疏明アルモ其事實カ異議ノ原因トシテ法律上ノ理由ナキトキ又ハ法律上理由アリト見ユルモ其根本タル事實ノ疏明ナキトキハ固ヨリ前掲ノ命令ヲ發スルコトヲ得サルナリ以上ノ條件ヲ具備シ且其事件カ急迫ナル場合ニハ受訴裁判所ノ裁判長并ニ執行裁判所モ亦右ノ命令ヲ發スルコトヲ得但執行裁判所カ此處分ヲ爲スハ假ニ受訴裁判所ノ權利ヲ行使スルニ過キス故ニ申立人ヲシテ受訴裁判所ノ本然ノ裁判ヲ提出セシムル爲メ相當ノ期間ヲ定メサルヘカシス而シテ申立人ハ此期間内ニ更ニ受訴裁判所ニ其申立ヲ爲シ右處分ノ命令ヲ受ケテ之ヲ執行裁判所ニ提出セサルヘカラス若シ受訴裁判所ニ於テ申立ヲ却下セラレ或ハ申立ヲ爲サスシテ其期間ヲ徒過セタルトキハ債權者ノ申立ニ因リ強制執行ヲ續行スヘ

キモノトス(第五四七條第三項第四項)

受訴裁判所カ右ノ處分ヲ爲シタルトキハ異議ノ訴ニ付キ判決ヲ爲スマテ其效力ヲ保有ス此處分ニ關スル裁判ハ同條第三項ニ依レハ口頭辯論ヲ經スシテ爲スモノナルカ故ニ之ニ對シ第五百五十八條ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

右處分ハ前述ノ如ク異議ノ訴ニ付テノ判決前ニ爲スヘキ一時ノ假處分ニシテ其判決アルマテ效力ヲ保有スルニ過キササルヲ以テ同訴ノ判決ニ於テ受訴裁判所ハ前ニ發シタル命令ヲ取消シ或ハ變更シ又ハ之ヲ認可スルコトヲ得若シ又未タ其處分アラザリシトキハ右判決ニ於テ新ニ命令ヲ發スルコトヲ得第五四八條第一項而シテ此新命令及ヒ已ニ發シタル命令ノ取消變更認可ニ關スル異議ノ訴ノ判決ノ部分ニ付テハ裁判所ハ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノナリ(第五四八條第二項故ニ若シ此判決ノ部分ニ付キ假執行ノ宣言ナカリシトキハ當事者ハ第五百八條ノ規定ニ依リ判決補充ノ申立ヲ爲スコトヲ得第五百四十八條第三項ニ右ノ裁判ニ對スル不服ニ付テハ第五百一十一條ヲ準用

スル旨ヲ規定セリ故ニ第二審ニ於テハ申立ニ因リ先ツ假執行ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲ササルヘカラス而シテ第二審ニ於テ爲シタル假執行ニ付テノ裁判ニ對シテハ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルナリ異議ノ訴ノ本案判決ニ付テモ當事者カ其判決ノ確定ヲ待ツトキハ債ヒ難キ損害又ハ計リ難キ損害アルヘキコトヲ疏明スルトキハ第五百三條ニ依リテ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノトス以上ヲ以テ請求ニ關スル異議ノ效果ヲ説明セリ終リニ此訴ヲ提起スヘキ時期ニ付キ一言セシ

請求ニ關スル異議ノ訴ハ強制執行ノ續行中ハ何時ニテモ提起スルコトヲ得ルモ債權者カ強制執行ニ因リ已ニ辨濟ヲ受領シ強制執行力終了ヲ告ケタル後ハ異議ノ目的存セサルヲ以テ此訴ヲ起スコト能ハサルハ勿論ナリ此場合ニハ唯不法行爲若クハ不當利得ニ基ク訴權ニ依リ通常ノ訴訟手續ニ從ヒ物ノ返還又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルノ外途ナシ然レトモ已ニ異議ノ訴ヲ相當ノ時期ニ提起シタルモ強制執行力續行セラレテ其判決前債權者カ執行ヲ遂ケタルトキハ債務者タル原告ハ第九十六條第三號ノ規定ニ從ヒ請求ノ目的ヲ物ノ返還又

ハ損害ノ賠償ニ變換スルコトヲ得ヘキナリ

第四款 強制執行ノ目的物ニ關スル第三者ノ異議

第一項 異議ノ基本タル權利

第五百四十九條第一項ニ依レハ第三者カ強制執行ノ目的物ニ關シテ異議ノ訴ヲ提起スルヲ得ルハ其目的物ニ付キ所有權其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨グル權利ヲ有シ之ヲ主張スル場合ニ限ルモノナリ

不動産ニ付テハ登記制度アリ又其強制管理強制競賣ニ付テハ第六百四十三條第七百六條ノ規定ニ依リ債務者ノ所有物タル證明ヲ爲スコトヲ必要トスルカ故ニ第三者カ強制執行ニ依リ不動産ノ所有權ヲ侵害セララルコトハ甚タ稀有ニ屬ス又動産ト雖モ第三者カ之ヲ占有スルトキハ第五百六十七條ノ規定ニ依リ其提出ヲ拒絕シ之ニ對スル強制執行ヲ免ルヲ得ヘキカ故ニ其權利ヲ侵害セララルコト亦甚タ稀ナルヘシ若シ第三者カ動産ヲ占有シ且其提出ヲ拒絕スルニ拘ハフス強テ之ヲ差押ヘタルトキハ前ニ述ヘタル如ク手續違背ノ異議ヲ申立ツルヲ得ヘキノミトラス尙ホ又本款ノ異議ヲモ起スコトヲ得ヘシ故ニ此異議ノ起

ルハ第三者カ自己ノ所有スル動産ヲ占有セスシテ之ヲ債務者ノ占有ニ置キタル場合ニ最モ多シ即チ此場合ニ於テ執達吏カ第三者ノ所有物ヲ債務者ノ所有物トシテ差押ヘタリトノ争ハ吾人ノ屢見聞スル所ナリ

所有權ノ外物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨グル權利トハ地上權共有權永小作權占有權等ニシテ此等ノ權利ヲ有スル第三者カ強制執行ニ依リ此權利ヲ害セラレタルトキハ茲ニ所謂異議ノ訴ヲ起スコトヲ得ルモノトス

強制執行ノ目的物ニ對スル物上擔保權ハ金錢ノ債權ニ付テハ強制執行ニ於テハ此異議ノ訴ノ原因ト爲スコトヲ得ス即チ第三者ハ物上擔保ノ權利ヲ有スルモ其目的物ノ差押ヲ妨グルコトヲ得ス唯訴ヲ以テ其權利ヲ主張シ目的物ノ賣得金ノ上ニ優先ノ辨濟ヲ請求スル權利アルノミ(第五六五條但第三者カ其目的タル動産ヲ占有スル場合ニ於テハ前ニ述ヘタル如ク其提出ヲ拒ムノ權利ヲ妨ケス又金錢ノ債權ニアラサル物ノ引渡又ハ明渡ヲ目的トスル債權ノ強制執行ニ於テモ抵當權若クハ不動産上ノ先取特權ノ如キハ第三者カ債務者所有ノ不動産ノ上ニ之ヲ有スル場合ニ於テ債權者カ債務者ニ對シ縱令第七百三十一條ニ

依リ執達吏ヲシテ其不動産ノ明渡又ハ引渡ヲ爲サシムルモ右擔保ノ權利ニシテ登記ヲ爲シタルモノナル以上ハ毫モ利害ノ影響ヲ受クルコトナク依然トシテ存在スルヲ以テ第三者ハ其強制執行ニ對シ異議ノ訴ヲ起ス必要ナク隨テ此ノ如キ權利ハ所謂物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ト稱スルヲ得サルナリ又第三者カ債務者所有ノ不動産ノ上ニ質權留置權其他ノ權利ヲ有シ且之ヲ占有スルトキハ債權者カ其物ノ引渡明渡ノ債權ニ付キ強制執行ヲ爲スニハ第七百三十二條ニ依リテ債務者ニ屬スル權利ノ移付ヲ受クルニ止マル換言セハ其物ハ強制執行ノ目的ト爲ルニアラスシテ物ノ上ニ有スル債務者ノ權利カ強制執行ノ目的ト爲ルニ過キサルカ故ニ此第三者ハ自己ノ權利ヲ以テ債務者ニ對抗スルコトヲ得ルト同シテ債務者ノ權利承繼人タル債權者ニモ對抗スルコトヲ得果シテ然ラハ此集合ニ於テモ亦第三者ヨリ進ミテ異議ノ訴ヲ提起スルノ必要ヲ見サルナリ

不作爲ヲ目的トスル債務ノ強制執行ニ於テ第七百三十三條民法第四百十四條第三項ノ規定ニ依リ第一審ノ受訴裁判所カ債務者ノ爲シタルモノヲ除去スル

決定ヲ爲シタル場合ニ其除去スル物ヲ買受ケタル第三者ハ其所有權ヲ主張シ強制執行ニ對シテ異議ヲ起スコトヲ得サルハ論ヲ俟タス何トナレハ此場合ニ於テハ其除去スヘキ物ヲ目的物トシテ強制執行ヲ爲スニアラス不作爲義務ノ強制執行ノ結果トシテ單ニ物ノ除去ヲ命令スルニ過キサレハ決シテ其物ノ所有權ノ侵害ヲ生セス又物ノ除却ニ付テハ不作爲ノ義務者ハ固ヨリ其不法ノ行爲ニ基ク結果トシテ之ニ甘ンゼサルヘカラサルカ故ニ承繼人タル第三者モ亦隨テ之ニ對シ異議ヲ主張スルノ理由ナケレハナリ故ニ第三者若シ善意ナルトキハ唯賣主タル債務者ニ對シ損害ノ賠償ヲ求ムルノ外途ナキナリ

第二項 異議ノ被告及ヒ管轄裁判所

本款ノ異議モ請求ニ關スル異議ト同シク訴ヲ以テ爲スヘキモノニシテ通常債權者ヲ被告トス若シ數多ノ債權者カ同一物ニ付キ強制執行ヲ爲シタルトキハ其總員ヲ共同被告ト爲ス然レトモ債務者モ亦第三者ノ異議ヲ正當トセス其權利ヲ否認スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ債務者ヲモ共同被告ト爲スヘキナリ第五四九條第一項第二項

此異議ノ訴ヲ管轄スル裁判所ハ請求ニ關スル異議ニ於ケルト異ナリテ執行裁判所トス是レ實際ノ便宜ノ爲メナリ但事物ノ管轄ニ付テハ通常ノ規定ニ從ヒ訴訟物カ區裁判所ノ管轄ニ屬セサルトキハ執行裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判所ノ管轄トス(第五四九條第三項)

第三項 異議ノ效果及ヒ提起ノ時期

本款ノ異議ノ訴モ亦請求ニ關スル異議ノ訴ト同シク強制執行ノ續行ヲ停止スル效力ナキモ之ヲ起シタル第三者ハ強制執行ノ停止又ハ執行處分ノ取消ヲ求ムルヲ得ルコト請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シタル債務者ニ於ケルト同シク前款第三項ニ説明シタル第五百四十七條第五百四十八條ノ規定ハ茲ニ之ヲ準用スヘキモノトス其唯一ノ異ナル點ハ請求ニ關スル異議ニ因リ執行處分ヲ取消スニハ必ス申立人ニ於テ保證ヲ立ツルコトヲ要スルモ目的物ニ關スル異議ノ訴ノ提起アリタルトキハ裁判所又ハ裁判長ハ申立人ニ保證ヲ立テシメスシテ執行處分ノ取消ヲ命スルヲ得ルコト是ナリ

ナリ故ニ強制執行ノ既ニ開始セラレテ尙ホ其繼續中ニ在ルニアラザレハ此訴ヲ起スヲ得ス若シ債權者カ目的物ヲ受取リ又ハ之ヲ差押ヘ競賣ニ付シタル後競賣代金ヲ受取リタルトキハ取戻又ハ賠償ノ訴ヲ起スノ外途ナキコト前ニ述ハタル如シ然レトモ目的物ノ競賣後ト雖モ其賣得金ヲ債權者カ受取ラサル間ハ未タ強制執行ハ終了セサルカ故ニ差押ヲ取消スコトハ不能ニ屬スルモ賣却代金ノ請求ハ此訴ヲ以テ爲スコトヲ得ヘシ又競賣前ニ異議ノ訴ヲ提起シタルモ強制執行ノ續行ニ因リ競賣ヲ實施セラレ又ハ債權者カ競賣代金受取リタルトキハ訴訟ノ目的ヲ變シテ代金ノ請求ト爲スコトヲ得ルハ前款ノ異議ノ訴ニ於ケルト異ナルコトナシ

以上説明セル強制執行ノ目的ニ關スル異議ハ學者之ヲ執行參加ト稱ス蓋シ其趣旨第五十一條ニ規定スル主參加訴訟ト相類似スル所アルカ故ナリ然レトモ二者ノ間ニハ大ナル差違アルヲ認メサルヘカラス今左ニ之ヲ比較説明セン

(一)主參加ハ本訴ノ權利拘束中即チ訴狀ノ送達ヨリ判決確定マテノ間ニ限り訴訟ノ目的物ニ付キ權利ヲ主張スル第三者ヨリ原被告ニ對シテ請求ヲ爲スニ

在リ之ニ反シテ執行參加ハ強制執行ノ目的物ニ關スル訴ナルカ故ニ判決確定シテ強制執行ノ開始セラレタル後即チ訴訟物ノ權利拘束消滅シテ最早主參加ヲ爲ス能ハサル時期ニ爲スヘキモノトス隨テ其管轄裁判所ヲ異ニス

(二)主參加ノ訴ニ於テハ必ス本訴ノ當事者双方ヲ被告トス之ニ反シテ執行參加ノ訴ニ於テハ必スシモ債權者債務者ノ双方ヲ被告トスルニ限ラス債權者一人ノミニ對シ之ヲ起スコトヲ得ルハ前ニ説明シタル所ナリ

右ノ如ク執行參加ハ通常主參加ト其提起ノ時期ヲ異ニスルモ或場合ニハ其時期ヲ同シラスルコトアリ例ヘバ債權者カ假執行ノ宣言アル判決ニ基キ強制執行ヲ爲ストキハ其判決未タ確定セサルコトアリ此場合ニ於テハ一面ニハ主參加ヲ爲シ又一面ニハ執行參加ヲ爲スコトヲ得ヘキカ故ニ其權利ヲ主張ス第三者ハ己レノ欲スル所ニ從ヒ二者中其一ヲ選擇シテ之ヲ提起スルコトヲ得ヘキナリ

第三節 申立及ヒ異議ノ裁判ニ對スル上訴

強制執行ニ關スル異議中前節第三款第四款ニ説明シタル請求ニ關スル異議及

親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於ケル救濟法第九五二條)

親族會カ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ハ其決議ニ代ハルヘキ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得人事編第一七六條)

親族會員カ旅行疾病其他ノ事由ニテ開會スルヲ得サルコトアリ或ハ會議ヲ開クモ過半數ヲ得サルコトアリテ之カ爲メニ必要ノ決議ヲ爲スコト能ハサルトキハ會員ヨリ其決議ニ代ハル可キ裁判ヲ爲スコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ルモノトセリ是レ會議ヲ要スル本人保護ノ爲メニ至當ノ規定ナリ而シテ此請求ヲ爲スコトヲ得ル者ハ會員ニ限り其他ノ親族後見人等ハ此請求權ヲ有セサルナリ然レトモ裁判所カ親族會ノ決議ニ代ハル可キ裁判ヲ爲シタルトキハ之ニ對シテ抗告ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ此抗告ハ獨リ親族會員ニ限ラス第九百四十四條ニ掲ケタル者即チ本人、戶主、親族後見人、後見監督人、保佐人、檢事又ハ利害關係人ヨリモ爲スコトヲ得ルモノトス非訟事件手續法第一〇二條

親族會員ノ責任第九五三條(親族會員ニシテ)

第六百四十四條ノ規定ハ親族會員ニ之ヲ準用ス

本條ハ親族會員ノ責任ヲ定メタルモノニシテ其責任ハ受任者ノ責任ニ同シキモノトセリ即チ受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ委任事務ヲ處理スル義務ヲ負フ第六四四條モノニシテ本法ニ於テハ之ヲ後見人ニ準用シ第九三六條又後見監督人ニモ之ヲ準用シ(第九一六條)同一ノ注意ニ基キテ之ヲ親族會員ニモ準用シタルナリ是ヲ以テ親族會員ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス例ヘハ親族會ニ於テ後見人後見監督人保佐人等ヲ選任スルトキ不注意ニ依リ不適任者ヲ選任シタルカ如キ又無能力者ノ不動産ヲ賣却セントシ其可否ヲ決スルニ當リ相當ノ注意ヲ以テ其賣却ノ時機及ヒ代價等ノ調査ヲ爲サスシテ後見人ノ發議ニ從ヒ容易スタ之カ決議ヲ爲シタルカ如キ場合ニ於テ之カ爲メ損害ヲ生シタルトキハ親族會員ハ之ヲ賠償セサル可カラサルナリ但シ親族會員ノ中其決議ニ同意ヲ爲ササル者アルトキハ其者ハ責任ナク唯其決議ニ同意ヲ爲シタル者ノミ責任ヲ負フ可キハ論ヲ俟タサルナ

第八章 扶養ノ義務

本章ニ於テハ或親族間ニ互ニ扶養ヲ爲スノ義務アルコト其義務ノ順位其程度方法等ヲ規定セリ而シテ戸主ハ家族ニ對シテ扶養ノ義務アルコトハ戸主權ノ規定中第七四七條ニ規定シアリ又夫婦ハ互ニ扶養ノ義務アルコトハ婚姻ノ效力中第七九〇條ニ規定シアリテ本章以外ニ於テモ扶養ノ義務ヲ負フ者アリト雖モ其義務ノ順位其程度方法等ニ付テハ亦本章ノ規定ニ依ル可キモノトス

扶養ノ義務トハ自己ノ資力ニ依リテ生活ヲ爲シ又ハ教育ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテ其生活ノ資ヲ供シ又ハ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ニ教育ヲ受ケシムル義務ナリ舊民法人事編第二六條乃至第二九條ニ於テハ養料ノ義務ナル文辭ヲ用ヒタレトモ其意味ハ本來金錢ニ關スルモノニシテ甚タ狭ク教育及ヒ其權利者ヲ引取リテ世話スル事ヲ包含セサルヲ以テ本法ニ於テハ扶養ナル文辭ヲ用ヒ扶養義務者ハ必スシモ金錢ヲ與フルコトヲ要セサルノ意ヲ明瞭ニシタルナリ

親族相互ノ間ニ法律上ノ義務トシテ扶養ノ義務ヲ認ムルハ至當ノ規定ナリ茲ニ自カラ生活スルコト能ハスシテ救助ヲ要スル者アリトセン歟若シ親族ニシテ之ヲ救助セスンハ社會即チ國又ハ地方自治體ニ於テ救助セサル可カラサルニ至ル可ケレトモ此ノ如キハ到底其財力ノ能ク堪フル所ニ非ス國家ト雖モ自治ヲ爲スコト能ハサル者ニ對シテハ扶養ヲ爲スコキ義務アリト雖モ是レ止ムヲ得サル場合ニ存スルモノニシテ他ニ之ヲ扶養ス可キ者アルニ於テハ先ツ之ヲシテ其扶養ヲ爲サシムルハ當然ナリ故ニ親族ハ自然ノ愛情アルニ因リ相互ニ扶養ス可キモノトセリ而シテ此義務ヲ法律上ノ義務ト爲サシテ親族ノ德義ニ一任スルトキハ不徳義者ハ父母妻子ノ飢餓ニ迫ルヲ見テ之ヲ顧ミサルトモ如何トモスル能ハサルヲ以テ之ヲ民法ニ規定シ法律上ノ義務ト爲シタナリ然レトモ扶養ノ義務ハ如何ニ至當ナリトスルモ其範圍ニ至リテハ親族ノ遠近ヲ斟酌シテ之ヲ定メサル可カラサルカ故ニ法律ハ其必要ト認メタル範圍内ニ於テ此義務ヲ認メタリ

扶養義務者(第九五四條)

直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲ス義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ直系尊屬ニシテ其家ニ在ル者トノ間亦同シ(八事編第二六條第二七條)

親族相互ニ扶養ヲ爲スコトハ自然ニ出ツト雖モ今日ニ在リテハ生計ヲ營ムコト昔日ノ如ク容易ナラサルカ故ニ人ヲシテ猥リニ扶養ノ義務ヲ負擔セシム可キニ非ス故ニ法律上扶養ノ義務アル者ハ之ヲ制限セサルトキハ親族中富裕ノ者アレハ舉族之ニ寄食シ富者ハ其負擔ニ堪ヘサルニ至ル是ヲ以テ民法ニ於テハ其範圍ヲ狭クシ直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ヲ爲スノ義務ヲ負フモノト爲セリ而シテ是迄屢説クカ如ク養親又ハ其直系尊屬ト養子繼父母ト繼子及ヒ嫡母ト庶子トハ血族ニ準セララルカ故ニ其間相互ニ扶養ノ義務アルモノトス又直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ其家ニ在ルト否トノ區別アラサルナリ故ニ養子繼組ニ因リテ他家ニ入りタル者ト實家ニ在ル父母祖父母トノ間又他家ニ嫁シタル姉ト養子繼組ニ因リテ他家ニ入りタル弟トノ間ハ家ヲ異ニスルニ拘ラス互ニ扶養ノ義務ヲ負フ

夫婦ノ一方ト他ノ一方ノ尊屬親トノ間ハ其家ヲ同フスルトキニ限リ此義務ヲ負フ例ヘハ他家ニ嫁シタル女ハ其家ニ在ル夫ノ父母祖父母等トノ間又他家ノ入夫ト爲リタル男ハ其家ニ在ル父母祖父母等トノ間ニ於テ相互ニ扶養ノ義務ヲ負フ然レトモ夫婦ノ一方ハ縱令他ノ一方ニ直系尊屬アリト雖モ家ヲ異ニスルトキハ其者トノ間此義務ナキモノトス夫婦ノ一方ノ直系尊屬ニツテ家ニ在ル者ト他ノ一方トハ慣習上殆ト自己ノ直系尊屬ト同一視シ又其尊屬ヨリモ自己ノ直系卑屬ト同一視スルカ故ニ以上ノ如ク規定シタル

扶養義務者ノ順位(第九五條)

扶養ノ義務ヲ負フ者數人アル場合ニ於テハ其義務ヲ履行ス可キ者ノ順序左ノ如シ

- 第一 配偶者
- 第二 直系卑屬
- 第三 直系尊屬
- 第四 戸主

第五 前條第二項ニ掲ケタル者

第六 兄弟姉妹

直系卑屬又ハ直系尊屬ノ間ニ於テハ其親等ノ最モ近キ者ヲ先ニス前條第二項ニ掲ケタル直系尊屬間亦同シ(八事編第二八條)

同一ノ人ニ對シテ數人ノ扶養ノ義務者アルコト少ナントセス例ヘハ同時ニ卑屬配偶者兄弟姉妹及ヒ直系尊屬等アルコトアリ又同一種ノ義務者ノ數人アルコトアリ例ヘハ卑屬數人アリ又ハ兄弟姉妹數人アリ此ノ如キ場合ニ於テハ其中何人カ最モ先ニ扶養ノ義務ヲ盡ス可キヤヲ定ムルハ必要ナリ而シテ元來此扶養ノ義務ナル者ハ德義ト自然ノ人情トニ基ツクモノナルカ故ニ其順位ヲ定ムルニ付テモ亦德義ト自然ノ人情トニ基カサル可カラス是ヲ以テ第一配偶者第二直系卑屬第三直系尊屬第四戸主第五配偶者ノ直系尊屬及ヒ直系卑屬ノ配偶者第六兄弟姉妹ト爲シタリ外國ニ於テハ直系尊屬ヲシテ直系卑屬ヨリ先キニ義務ヲ負ハシムルモノナントセザレトモ吾邦ニ於テハ孝ナルモノ社會道德ノ基本タルヲ以テ現今ノ慣習ニ從ヒ直系卑屬ヲ直系尊屬ヨリ先キニ爲シタル

所以ナリ又戸主ハ家族ト其親族關係如何ニ薄シト雖モ第四ノ順位ニ於テ義務ヲ盡ササル可カラス是レ吾邦家族制度ヨリ生スル結果ナリ

直系卑屬數種アリ又直系尊屬數種アリ例ヘハ子ト孫トアリ父ト祖父トアルコトアリ此場合ニ於テハ子ハ孫ヨリ先キニ義務ヲ盡ササル可カラス又父ト祖父トノ間ニ於テハ祖父ニ先テテ此義務ヲ盡ササル可カラス又配偶者ノ直系尊屬ニシテ家ニ在ル者モ亦同シキナリ此順位モ亦自然ノ人情ニ基キタルニ外ナラサルナリ

法律カ本條ニ於テ定メタル順位ニ在ル者ハ自己ノ資力ヲ盡シテモ後ノ順位ニ在ル者ヲシテ義務ヲ盡サシメスシテ自己獨リ此義務ヲ盡ササル可カラサルヤ若シ順位ノ先ニ在ル者ニシテ扶養義務ヲ盡スニ十分ナル資力アルトキハ此者ノミニ於テ其義務ヲ盡ササル可カラサルハ勿論ナレトモ若シ其義務者ニシテ全ク無資力ナルニハアラサレトモ一人ニテ其義務ヲ盡ス資力ナキトキハ其足ラサル所ハ其第二順位ニ在ル者之ヲ補足ス可キモノトス又第一順位ニ在ル者ニシテ全ク無資力ナルトキハ最初ヨリ第二順位ニ在ル者一人ニ於テ全部ノ義

務ヲ盡ササル可カラスニシテ其義務者ノ資力ニ其全員扶養義務ノ分擔(第九五六條)

同順位ノ扶養義務者數人アルトキハ各其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス但家ニ在ル者ト家ニ在ラサル者トノ間ニ於テハ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

直系卑屬及ヒ直系尊屬ノ如ク同一順位ノ扶養義務者中親等ヲ異ニスル者アルトキハ其親等最モ近キ者ヲ先ニスルコトハ前條ニ規定スレトモ親等ヲ異ニセサル同一順位ノ扶養義務者數人アルトキハ其中何人カ此義務ヲ盡ス可キヤ將タ共同シテ之ヲ盡ス可キヤヲ定メサル可カラス法律ハ此ノ如キ場合ニ於テハ各其資力ニ應シテ其義務ヲ分擔ス可キモノトセリ例ヘハ子數人アルトキハ其各人ノヲ分擔セサル可カラス又父母實父母養父母繼父母數人アルトキ兄弟姉妹數人アルトキモ亦同シキナリ而シテ此規定ニ依リテ各義務者カ分擔ス可キ高ハ必スシモ皆同一ナルモノニ非ス換言スレハ子三人アリテ父ヲ扶養シ其額一個月三十圓ヲ要スル場合ニ於テ必スシモ子カ平等ノ割合ヲ以テ各十圓

ヲ負擔ス可キモノニ非ス各人ノ資力同一ナルニ於テハ平等ニ之ヲ負擔スルハ當然ナリ然レトモ若シ各人ノ資力同一ナラサルトキハ各其資力ニ應ジテ負擔セサル可カラス故ニ一个月甲(長子)ハ百圓ノ收入ヲ得乙(次男)ハ五十圓丙(三男)ハ三十圓ヲ得ルトキハ右扶養ニ要スル三十圓ヲ之ニ比例分擔セサル可カラズ

同一順位ノ扶養義務者中扶養義務者ト家ヲ同フスル者ト否ラサル者トアリタルトキ例ヘハ父ヲ扶養スル場合ニ於テ其家ニ在ル子ト養子縁組又ハ婚姻等ニ因リテ他家ニ在ル者トノ間ニ於テハ先後ノ區別ヲ爲ササル可カラス又子カ扶養ヲ受クルニ當リ其義務者トシテ其家ニ養父ト實家ニ實父アル場合ニ於テモ同シク扶養ノ義務ヲ盡スニ付キ先後ノ區別ヲ爲ササル可カラス即チ家ニ在ル者先ツ扶養ヲ爲スコトヲ要ス是レ亦家族制度ヨリ生スル結果ト云フコトヲ得可ク

扶養權利者ノ順位第九五七條

扶養ヲ受クル權利ヲ有スル者數人アル場合ニ於テ扶養義務者ノ資力カ其全員

ヲ扶養スルニ足ラサルトキハ扶養義務者ハ左ノ順序ニ從ヒ扶養ヲ爲スコトヲ要ス

第一 直系尊屬

第二 直系卑屬

第三 配偶者

第四 第九百五十條第二項ニ掲ケタル者

第五 兄弟姉妹

第六 前五號ニ掲ケタル者ニ非サル家族

第九百五十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

扶養義務者一人ニシテ扶養ノ權利者數人ナル場合ニ於テ義務者一人ニシテ總テノ權利者ニ對シテ扶養ヲ爲スノ資力ヲ有スルトキハ別ニ論スルコトナク

レトモ其全員ヲ扶養スル資力ヲ有セザルトキハ如何ス可キヤ此場合ニ於テハ其權利者中ニ於テ順位ヲ設ケ其順位ノ先ナル者ノミ扶養ヲ受クルコトトセサル可カラス法律ハ左ノ如ク其順序ヲ定メタリ

第一直系尊屬第二直系卑屬第

三配偶者第四配偶者ノ直系尊屬及ヒ直系卑屬ノ配偶者第五兄弟姉妹第六前五號ニ掲ケサル家族是レナリ而シテ此順位モ亦德義ト自然ノ人情トニ依リ定メタルナリ歐米ノ人情ヨリ云ヘハ直系尊屬ヨリ配偶者及ヒ直系卑屬ヲ先キニス可シト雖モ吾邦ニ於テハ直系尊屬ハ最モ尊重ス可キカ故ニ之ヲ第一順位ニ置キタリ

扶養權利者タル直系尊屬又ハ直系卑屬中親等ノ異ナル者アルトキ例ヘハ父母ト祖父母トアルトキ又ハ子ト孫トアルトキハ其最モ近キ者ヲ先ニス即チ父母ハ祖父母ヨリ先ニ子ハ孫ヨリ先ニ扶養ヲ受クルモノトス是レ自然ノ人情ニ基ツクモノナリ

同順位ノ權利者間ニ在リテハ其需要ニ應シテ扶養ノ資ヲ分ツコト(第九五八條)同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ各其需要ニ應シテ扶養ヲ受クルコトヲ得

第九百五十六條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

同順位ノ扶養權利者數人アルトキハ其間ニ區別ヲ設クルコトヲ得ス例ヘハ家

ニ子數人アルトキハ其子ハ扶養ヲ受タルコトニ付キ區別ナシ然レトモ此數人ハ扶養義務者カ其義務トシテ出ス金員ヲ平等ニ分テテ受テ可キヤ如何法ハ此場合ニハ扶養ノ資ヲ各權利者ノ需要ニ應シテ分ツコトトモリ故ニ例ヘハ扶養ヲ受テ可キ子三人アリテ各其需要ノ同シキトキハ平等ニ分ツ可シト雖モ各扶養權利者ノ需要ハ其實力身體ノ強弱年齡男女等ニ依リ同シカラサルコトアリ此ノ如キ場合ニ於テハ自カラ差等ナキヲ得サルモノトス例ヘハ甲乙丙ノ三子アリテ甲(男子)大學ニ入り一ヶ月十八圓ヲ要スレトモ他ヨリ八圓ノ收入ヲ得ル途アリ乙(女子)ハ一ヶ月十二圓ヲ要スレトモ他ヨリ收入スルモノナク丙ハ幼稚ニシテ僅カニ六圓ヲ要スルノミ此場合ニ於テハ扶養義務者ニ對シ甲ハ一ヶ月十圓ヲ請求スルニ止マルモ乙ハ十二圓丙ハ六圓ヲ請求スルコトヲ得可シ然レトモ甲乙丙共ニ同一ノ學校ニ入り同額ノ學費ヲ要シ就レモ他ヨリ收入ヲ得ル途ナキトキ換言スレハ各其需要ノ相同シキトキハ孰レモ同額ヲ受タルモノトス

此場合ニ於テモ亦家ニ在ル權利者ト否ラサル者トノ間ニハ區別アリ例之甲

男一家ニ在ルモ乙男ハ養子ト爲リテ他家ニ在リ父母ノ中父ハ家ニ在ルモ母ハ其實家ニ在ル場合ニ於テ孰レモ扶養ヲ受ケントスル場合ニ於テ扶養義務者カ各權利者ノ需要ニ應スルコトヲ得ルトキハ別ニ説明ヲ要スルコトナシ然レトモ其義務者ニシテ各權利者ノ需要ニ應スルノ實力ナキトキハ恰カモ扶養義務者ニ圖スルカ如ク(第九五六條)ニ在ル者先ツ扶養ヲ受クル權利ヲ有スルモノトス是レ家族制度ヨリ生スル自然ノ結果ナリ亦從來ノ慣習モ然ルナリ扶養義務ヲ生スル場合(第九五九條)

扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クヘキ者カ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテ生活ヲ爲スコト能ハサルトキニノミ存在ス自己ノ資産ニ依リテ教育ヲ受クルコト能ハサルトキ亦同シ

兄弟姉妹間ニ在リテハ扶養ノ義務ハ扶養ヲ受クル必要カ之ヲ受クヘキ者ノ過失ニ因ラスシテ生シタルトキニノミ存在ス但扶養義務者カ戸主ナルトキハ此限ニ在ラス(人事編第二七條第二九條)

何人モ各自立シテ生活スルヲ原則トスルカ故ニ扶養ノ義務ハ敢テ自活スルコ

トヲ得サル者ニ對シテ與フルコトニ限ラサル可カラス故ニ本條ヲ以テ此義務ヲ明カニシ扶養權利者カ自カラ生活スルコト能ハサル場合ニ限リ此義務アルモノトセリ而シテ茲ニ此規定ヲ設ケタルトキハ第九百五十四條ニハ單ニ直系血族及ヒ兄弟姉妹ハ互ニ扶養ノ義務ヲ負フトアルカ故ニ自カラ生活スルコトヲ得ル者ト雖モ扶養ヲ受クル權利ヲ有スルモノニ非サルカノ疑ヲ生スルニ至ル可キヲ以テ此規定ヲ設ケタリ蓋シ父又ハ子カ莫大ノ資産ヲ有スル場合ニ於テ父又ハ子カ敢テ自活スルコト能ハサルトキニモ尙ホ之カ衣食ノ資ヲ助クルハ德義上ノ問題ニシテ法律上ノ義務ト爲ス可キモノニ非ス德義上ノ問題ハ敢テ自活ヲ爲スコト能ハサルカ如キ必要ノ場合ノミニ生スルモノニ非サレトモ法律上ノ問題ハ必要ノ場合ニノミ規定スルモノナレハ前ノ場合ノ如ク扶養ヲ爲スノ必要ナキカ如キ場合ニ於テハ其義務ヲ認メサルナリ是以テ幾分カ財産ヲ有スル者カ其收益ノミヲ以テ生活スルコト能ハサルトキハ其元本ヲ盡セタル後ニ非サレハ他ヨリ扶養ヲ受クルコトヲ得ス又身體健全ニシテ苟モ勞務ニ服スル以上ハ之ニ因リテ生活ノ資ヲ得ルニ難カラサルトキハ唯安居セテ他ノ

給養ヲ受ケント欲スルトモ許ス可キモノニ非ス若シ其者カ年少若クハ老年ニ
 ヲテ勞務ニ堪ヘ難キトキハ論ヲ俟タス縱令壯年ニシテ勞務ニ服スルニ堪フル
 者ト雖モ其者ノ身分ニ依リ勞務ニ服シ難キトキハ扶養ヲ受クルヲ得ルモノト
 ス又扶養ノ義務ハ單ニ生活ヲ扶養スル義務ニ止マラス必要ナル場合ニ於テハ
 教育ニ付テモ扶養ノ義務アリ蓋シ教育ハ文明國ニ在リテハ必須ニシテ缺ク可
 カラス教育ナキ生活ハ殆ト生活ト爲スニ足ラサルモノナルカ故ニ自己ノ資產
 ニ依リテ教育ヲ受タルコト能ハサル者ハ扶養義務者ノ費用ヲ以テ教育ヲ受タ
 ルコトヲ得ルモノトセサル可カラス而シテ其教育ノ程度ハ各人同シカラス其
 身分年齢身體ノ強弱及ヒ扶養義務者ノ身分實力等ニ依リテ異ナル可ク敢テ國
 家カ國民ニ對シテ負ハシメタル教育義務ノ程度ト同シキモノニ非サルナリ(小
 學校令第二〇條)

以上叙述スルカ如ク扶養ノ權利義務ハ其權利者カ自活スルコト能ハサル場合
 ニノミ存スルヲ原則トスレトモ之ニ對スル例外ナキニ非ス(第七百九十八條
 ノ規定ニ從フトキハ夫又ハ妻タル女戸主ハ其妻又ハ夫ノ實力ノ如何ニ拘ハラ
 ス一切ノ生活費ヲ負擔ス但シ其義務者ハ其權利者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ爲
 ス權利ヲ有ス)(二)親權者ハ其子ノ實力如何ニ拘ハラス之ヲ教育セサル可カラス
 (第八七九條第八九〇條但シ親權者ハ之カ爲メニ子ノ財産ノ收益ヲ爲ス故ニ第
 一第二ノ場合共ニ權利者ノ財産ヨリ生スル收益ニシテ生活費教育費ヲ償フニ
 足ラサル場合ニ於テノミ眞ノ義務タル可シト雖モ若シ生活費教育費カ權利者
 ノ財産ヨリ生スル收益ト同シキカ又ハ之ヨリ少ナキハ眞ノ義務トシテ不
 利益ヲ受クルモノニアラス

或立法例ニ於テハ過失ニ依リテ自活スルコト能ハサルニ至リタル者ニハ單
 ニ生命ヲ保ツニ必要ナル資料ノミヲ給ス可キモノト爲セリ然レトモ本法ニ於
 テハ第二項ノ場合ヲ除クノ外ハ右ノ如キ條件ヲ設ケス扶養義務者ハ自己ノ資
 産又ハ勞務ニ依リテ衣食住及ヒ教育ノ資料ヲ辨スルコト能ハサル者ニハ其一切
 ノ費用ヲ給ス可キモノト爲シ其生活ヲ爲スコト能ハサル原因ノ如何ハ敢テ之
 ヲ問ハザルナリ然レトモ例外トシテ兄弟姉妹ノ間ニ在リテハ其自活スルコト
 能ハサルニ至リタル者ノ過失ニ因リテ茲ニ至リタルトキハ敢テ扶養ヲ請求ス

ルコトヲ得サルモノトセリ故ニ父カ放蕩ノ爲メニ自己ノ資産ヲ浪費シ自活スルコト能ハサルニ至リタルトキト雖モ其子ハ之ニ對シテ扶養ヲ爲ササル可カラズ然レトモ若シ兄又ハ姉カ然ルトキハ弟又ハ妹ハ之ヲ扶養スルノ義務ナシ兄弟姉妹ヲ他ノ者ト區別シタルハ蓋シ兄弟姉妹ハ親子其他直系血族間ニ於ケルカ如ク互ヒニ相扶養ス可キ必要アルコトハ寧ロ例外ニ屬スルモノニシテ其間相互ノ扶養ヲ責ムルコト直系血族ノ如クスルコト能ハサルハ是レ自然ノ情愛ノ厚薄アルニ依ルナリ故ニ佛民法及ヒ獨逸民法ノ如キハ兄弟姉妹ノ間ニハ扶養ノ義務存セサルモノト爲シタリト雖モ多數ノ立法例ニ於テハ扶養ノ義務存スルモノト爲シ本條第二項ニ於ケルカ如キ制限ヲ設ケタリ

然レトモ戸主ハ其兄弟姉妹カ扶養ヲ受タルノ必要其過失ニ因リテ生シタルトキト雖モ扶養ノ義務ヲ負フモノトス是レ家族制度ヨリ生スル當然ノ結果ト云フコトヲ得可シ蓋シ吾邦ニ於テハ戸主其家ノ全財産ヲ有シ家族ハ一切ノ財産ヲ有セサルヲ通例トスルカ故ニ家族ハ如何ナル理由ニ因リテ自カラ生活スルコト能ハサルニ至ルトモ戸主カ之ヲ顧ミサルコトヲ得ルモノトスルトキハ家

族ハ如何トモスルコト能ハサルニ至ル可キヲ以テナリ而シテ戸主カ家族ヲ扶養ス可キ此義務ハ獨リ兄弟姉妹ニ對スル場合ノミニ限ラス之ヨリ親族關係ノ遠キ者ト雖モ其家族タル以上ハ之ニ對シテ兄弟姉妹ニ於ケルカ如キ同一ノ義務ヲ負フモノトス

扶養ノ程度(第九六〇條)

扶養ノ程度ハ扶養權利者ノ需要ト扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ之ヲ定ム(八事編第二九條)

扶養ノ程度ハ豫メ法律ヲ以テ之ヲ一定スルコト能ハス其程度ハ一方ニ於テハ扶養權利者ノ需要ト又他ノ一方ニ於テハ扶養義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リ異ナラサルヲ得サレハナリ例ヘハ扶養權利者ニ付テ云ハハ或ハ全ク資産ヲ有セス又勞務ニ就クヲ得サルコトアリ或ハ多少ノ資産ヲ有スルコトアリ又ハ勞務ニ就キ多少生活ノ資ヲ得ルモ自己ノ資産又ハ勞務ニ依リテハ自己生活ノ費用ノ全部ニ充ツルニ足ラサルコトアリ其第一ノ場合ニ於テハ生活費ノ全部ニ付キ扶養ヲ受クル必要アル可シト雖モ之ト異ナリテ第二ノ場合ニ於テハ不足

部分ノミノ扶養ヲ受クルニ過キサルナリ又其全部又ハ一部ノ扶養ヲ受クル場合ニ於テ扶養權利者ノ身分ハ其需要ニ影響ヲ及ホスヤ論ヲ俟タス身分ノ高キ華族ノ如キハ下等社會ノ者ニ比スルトキハ多額ノ生活費ヲ要スルナリ而シテ又扶養義務者ニ付テ云ヘハ或ハ資産ノ薄弱ナル者アリ富裕ナル者アリ或ハ身分ノ高キ者アリ又ハ否ラサル者アリ例ヘハ華族又ハ三井岩崎ノ如キ者ハ薄給ヲ受クル者又ハ車夫馬丁カ扶養ヲ爲ス場合ト同シキコト能ハス薄給者車夫馬丁カ扶養ヲ爲ス場合ニ於テハ権カニ其權利者カ生活ヲ爲スニ足ル丈ケノ資ヲ給スレハ足ルモ華族又ハ富裕者カ扶養ヲ爲ス場合ニ於テハ其權利者ノ生命ヲ保持スルニ止マラスシテ尙ホ相當ノ資ヲ給セサル可カラス而シテ此等ノ程度ハ權利者ノ資力如何ニ依リテ定ム可キハ勿論ナレトモ必スモ之ノミヲ以テ定ムルヲ得ス義務者ノ資力及ヒ身分ノ如何ニ依リテモ斟酌セサル可カラサルカ故ニ以上ノ如ク規定シタルナリ

扶養ノ程度ハ右ノ如ク扶養權利者ノ需要及ヒ扶養義務者ノ資力及ヒ身分ニ依リテ一旦之ヲ定メタリトモ其後ニ至リ若シ權利者ノ需要及ヒ義務者ノ資力及

ヒ身分ニ變動ヲ生シタルトキハ之ヲ増減スルコトヲ得可キナリ例ヘハ最初其程度ヲ定ムル際ハ義務者ノ資力不十分ニシテ相當ノ資ヲ給スルコト能ハザリシモ後チニ至リ富裕ト爲リタルトキハ十分ノ扶養ヲ爲ササル可カラス又最初ハ權利者全ク無資力ナリシモ其後多少ノ財産ヲ有シ又ハ勞務ニ就キタルトキハ最初定メタル扶養ノ實額ヲ減スルコトヲ得可キナリ

扶養ノ方法第九六一條

扶養義務者ハ其選擇ニ從ヒ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ又ハ之ヲ引取ラズシテ生活ノ資料ヲ給付スルコトヲ要ス但正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

舊民法ニハ別ニ扶養ノ方法ヲ定メサレトモ扶養義務ヲ養料ヲ給ス可キ義務ト爲シタルカ故ニ當事者間ノ協議ニテ其義務者カ權利者ヲ引取リテ扶養ヲ爲ストキハ別ニ論スルコトナシト雖モ若シ此ノ如キ協議調ハサルトキハ其義務者ハ單ニ扶養ノ資料ヲ給スルヲ以テ足ル又外國ノ立法例ニ於テモ多クハ扶養ノ方法トシテ金錢ノ支拂ヲ爲ス可キモノト爲スト雖モ吾邦ノ事情ニ照ストキハ

扶養權利者ニ扶養ノ資料ヲ與ヘル方法ノミニテハ適當ナラサルカ故ニ或ハ扶養權利者ヲ引取リテ之ヲ養ヒ或ハ之ヲ引取ラヌシテ單ニ生活ノ資料ヲ給スルコトトシ其選擇ハ一ニ之ヲ其義務者ニ任シタリ然レトモ單ニ此等二方法ノミニナルトキハ不便ナルコトアル可キヲ以テ正當ノ事由アルトキハ裁判所ハ扶養權利者ノ請求ニ因リ扶養ノ他ノ方法ヲ定ムルコトヲ得ルモノトセリ例ヘハ扶養權利者ヲ扶養義務者ノ家ニ引取ルトキハ家内ニ不和ヲ生ス然レトモ其權利者カ生活ノ資料ヲ受ケテ他人ノ家ニ居住スルコトノ不可ナル事情アルカ如キ場合ニ於テ扶養權利者ハ別ニ一戸ヲ構ヘ扶養義務者ヨリ唯其費用ヲ受タルコトトスルヲ得可キナリ而シテ其方法ハ一ニ裁判所ノ定ムル所ニ依ラサル可カラヌ

扶養ノ程度又ハ方法ヲ定メタル判決ノ效力(第九六二條)

扶養ノ程度又ハ方法カ判決ニ因リテ定マリタル場合ニ於テ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得民事訴訟法第二四〇條第二四四條)

凡ソ判決ハ一旦確定シタルトキハ後チニ至リ其效力ニ變更ヲ生セサルヲ通例トスト雖モ扶養義務ニ付テハ此原則ニ依ルコト能ハサルナリ既ニ第九百六十條ニ於テ叙述シタルカ如ク契約ニ依リテ扶養ノ程度及ヒ方法ノ定マリタル場合ニ於テハ其後ニ至リ其根據タル事情ノ變更ニ依リ變更ヲ來タシ又ハ其消滅ヲ來タシタルトキハ其義務ニ變更ヲ生シ又ハ之ヲ消滅セシムルハ論ヲ俟タサルカ判決ニ因リテ扶養ノ程度及ヒ方法カ定マリタル場合ニ於テモ其判決ノ根據ト爲リタル事情ニ變更ヲ生シタルトキハ當事者ハ其判決ノ變更又ハ取消ヲ請求スルコトヲ得セシメサル可カラヌ扶養ノ程度ハ權利者ノ需要ト義務者ノ身分及ヒ資力トニ依リテ定ムルモノナレハ權利者ノ需要又ハ義務者ノ身分及ヒ資力ノ變更シタルトキハ其程度ハ最初定メタルモノト同シカラサル可キコトハ契約ニ因リテ之ヲ定メタル場合ト判決ニ因リテ其定マリタル場合トニ依リテ異ニス可キ理由アルヲ見サルナリ又扶養ノ方法ニ付テモ亦同シキナリ例ヘハ最初判決ニ因リテ扶養ノ程度ヲ定メタルトキニ在リテハ扶養權利者ハ全ク無資力ナリシモ其後ニ至リ多少財産ヲ有スルニ至リ又ハ勞務ニ就キ多少ノ

收入ヲ得ルニ至リ又最初多少ノ財産ヲ有シ又ハ勞務ニ就キタル者カ其後ニ至
 リ全ク無資力ト爲リ又ハ勞務ニ就クコト能ハサルニ至ルコトアリ又扶養義務
 者ニ付テ云ヘハ最初富裕ナリシモ後チ貧困ニ陥ルコトアリ又ハ最初ハ十分
 ノ生活ノ資料ヲ給スルコト能ハザリシモ後チ富裕ト爲リ十分ノ生活資料ヲ給ス
 ルヲ得ルニ至ルコトアリ又扶養ノ方法ニ付テモ最初權利者ヲ義務者ノ家ニ引
 取リテ養ヒシモ幼年ナリシ權利者カ成年ニ達シ他所ニ於テ教育ヲ受クル必要
 ナ生シタルカ如キ場合又ハ最初權利者ヲ引取ラシテ單ニ生活ノ資料ノミヲ
 生セシモ後チニ至リ引取リテ看護ヲ要ス可キ疾病ニ罹リタルカ如キ場合ニ於
 テハ其方法ヲ變更セサル可カラサルノ必要アリ而シテ是レ特ニ明文ヲ設ケテ
 規定セサルトキハ扶養ノ程度及ヒ方法ニ關スル判決モ普通ノ原則ニ依リ確定
 後ニ於テハ之カ變更又ハ消滅ヲ請求スルコトヲ得サルヲ以テナリ
 扶養ノ權利ノ性質第九六三條
 扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
 扶養ヲ受クル權利ハ一ノ財産權債權ナルカ故ニ債權總則ノ規定ハ總ヘテ之

ニ適用セラル可キヲ原則トスト雖モ扶養ヲ受クルコトハ實ニ其權利者ノ生活救
 育ヲ目的トシ必要缺ク可カラサルモノニシテ若シ之カ處分ヲ許ルスコトス
 ルトキハ其目的ヲ達セサル可シ而シテ法律カ此扶養ノ權利及ヒ義務ヲ設ケタ
 ルハ公益ニ基キタルナリ若シ扶養權利者カ其權利ヲ拋棄シテ扶養ヲ受ケサル
 ニ至ルトキハ遂ニ餓死スルニ至ル可ク否ラサルトモ國又ハ地方自治體ニ於テ
 之ヲ養ハサルヲ得サルニ至ル可クシテ此ノ如キハ此規定ヲ設ケタル精神ニ反
 スルナリ故ニ扶養ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡スコトヲ得サルハ勿論之ヲ擔保ニ
 供シ又ハ差押フルコトヲ得サルナリ(民事訴訟法第六一八條第一項第一號)

親族法終

法律學博士 櫻井重太郎 著

親族法目次

緒論

三十二

親族法目次

緒論

第四編 親族

第一章 總則

第二章 戶主及家族

第一節 總則

第二節 戶主及家族ノ權利義務

第三節 戶主權ノ喪失

第三章 婚姻

第一節 婚姻ノ成立

第一款 婚姻ノ要件

第二款 婚姻ノ無效及ヒ取消

第二節 婚姻ノ效力

親族法目次

第三節 夫婦財產權……………一〇五

第一款 總則……………一〇六

第二款 法定財產權……………一一六

第四節 離婚……………一二九

第一款 協議上ノ離婚……………一三一

第二款 裁判上ノ離婚……………一三八

第四章 親子……………一五四

第一節 實子……………一五四

第一款 嫡出子……………一五五

第二款 庶子及ヒ私生子……………一五六

第二節 養子……………一八三

第一款 緣組ノ要件……………一八四

第二款 緣組ノ無效及ヒ取消……………二〇一

第三款 緣組ノ效力……………二一三

第四款 離縁……………二一五

第五章 親權……………二三八

第一節 總則……………二四三

第二節 親權ノ效力……………二四七

第三節 親權ノ喪失……………二八二

第六章 後見……………二八七

第一節 後見ノ開始……………二八九

第二節 後見ノ機關……………二九一

第一款 後見人……………二九二

第二款 後見監督人……………三一八

第三節 後見ノ事務……………三三三

第四節 後見ノ終了……………三七一

第七章 親族會……………三八六

第八章 扶養ノ義務

四〇五

第一節 扶養ノ義務ノ種類
一、扶養ノ義務ノ種類
二、扶養ノ義務ノ程度

第二節 扶養ノ義務ノ履行
一、扶養ノ義務ノ履行ノ時期
二、扶養ノ義務ノ履行ノ場所

第三節 扶養ノ義務ノ免除
一、扶養ノ義務ノ免除ノ事由
二、扶養ノ義務ノ免除ノ時期

第四節 扶養ノ義務ノ違反
一、扶養ノ義務ノ違反ノ種類
二、扶養ノ義務ノ違反ノ法律ノ効果

第五節 扶養ノ義務ノ執行
一、扶養ノ義務ノ執行ノ時期
二、扶養ノ義務ノ執行ノ場所

親族法目次終

一、親族ノ種類
二、親族ノ地位
三、親族ノ權利
四、親族ノ義務
五、親族ノ執行

三〇八



明治三十三年四月廿八日印刷
明治三十三年四月廿九日發行
(三月分)

編輯者 東京市西谷區四谷仲町三丁目六番地
小田 幹治 郎

印刷者 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子 鐵五 郎

印刷所 東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子 活版 所

發行所 司法省
指定 **和佛法律學校**

所在 (東京市麴町區富士見
町六丁目十六番地)

電話 (番町百七十四番)

明治廿二年十二月九日內務省許可